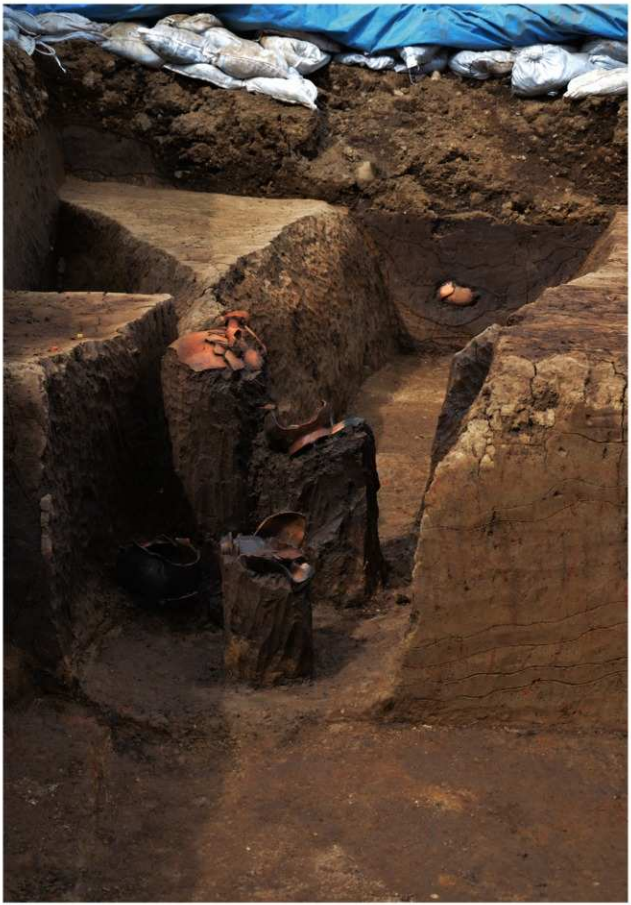
戸田市文化財調査報告　ＸＸⅣ

鍛冶谷・新田口遺跡 X

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１６

埼玉県戸田市教育委員会



第２号周溝状遺構　遺物出土状況（南西から）

はじめに

埼玉県の南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口13万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も変わってきておりますが、古来から受け継がれてきた伝統や歴史を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護が求められているところです。

そのような状況下において、今回報告いたします鍛冶谷・新田口遺跡第10次調査は、個人住宅建設に伴い、平成27年に緊急発掘調査が行われたものです。この発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代前期に生活を営んだ人たちが遺した貴重な痕跡を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を得ることができました。

本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、ご尽力、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成２８年３月

戸田市教育委員会
教育長　戸ヶ崎　勤

例　言

1．本書は、埼玉県戸田市上戸田５丁目 27 番３所在の鍛冶谷・新田口遺跡第 10 次発掘調査の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、個人事業者による戸建居住専用住宅建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が実施した。また、出土品整理および報告書作成は戸田市教育委員会が実施した。
3．発掘調査および整理作業、報告書作成に要した経費は、全て戸田市の負担による。
4．鍛冶谷・新田口遺跡第 10 次発掘調査は、平成 27 年４月６日から平成 27 年５月７日まで実施し、出土品整理は平成 27 年５月 11 日から平成 28 年３月 15 日まで戸田市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財整理室および戸田市役所生涯学習課執務室で実施した。
5．本書は、戸田市教育委員会が刊行した。
6．本書は、岩井聖吾が編集、執筆を行った。
7．発掘現場での記録写真および出土遺物の写真撮影は岩井聖吾が担当した。
8．本書の版権は、戸田市教育委員会が保有する。
9．発掘調査成果の周知と活用または学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製して利用できるものとする。
10. 出土遺物及び発掘調査に伴う各種データ等はすべて戸田市教育委員会が保管し、活用を図るものとする。
11. 本事業は、以下の組織により実施した。

埼玉県戸田市教育委員会

教育長	羽宮　正晃（平成 27 年３月 31 日まで）
	戸ヶ崎　勤（平成 27 年４月１日から）
教育部長	山本　義幸（平成 27 年３月 31 日まで）
	中川　幸子（平成 27 年４月１日から）
次長	小沼　利行（平成 27 年３月 31 日まで）
	鈴木　研二（平成 27 年４月１日から）
生涯学習課長	軸所　博行（平成 27 年３月 31 日まで）
	津田　孝一（平成 27 年４月１日から）
生涯学習課主幹	津田　孝一（平成 27 年３月 31 日まで）
生涯学習課副主幹	雨宮　博子（平成 27 年４月１日から）
生涯学習課主事	池上　裕康（平成 27 年３月 31 日まで）
	田中　聡　（平成 27 年４月１日から）
	長澤　有史（平成 27 年４月１日から）
	岩井　聖吾（調査担当者）

発掘調査および整理作業参加者

植村智美　榎本　昇　榎本眞由美　大熊福太郎　大原美紀　尾形美枝子　岡本統実
加藤輝男　柴田久美子　関根洋子　冨山絵里子　中信節子　萩原庸子　平吹久美子

12. 本書の作成にあたり、次の方々・機関にご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して謝意を表するものである。

小島清一　小坂延仁　篠崎健次　福田　聖　盛野浩一　吉田幸一
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課　公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
新田口町会　戸田市都市整備部道路課　戸田市立郷土博物館

（敬称略・五十音順）

凡　　例

1．挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2．本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に則している。
3．遺構番号は、調査の進捗過程でそのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付した。
　なお、遺構略号は下記のとおりである。
　SI：竪穴住居跡　　SX：周溝状遺構　　SD：溝状遺構　　P：ピット
4．発掘調査時の土層観察における色調の記録および整理作業時の遺物観察における色調の記録は、『新版　標準土色帖』2013 年度版（小山正忠・竹原秀雄 編・著、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）を参考にした。
5．出土遺物で赤彩または黒彩がなされている箇所は、グレートーンにより実測図中に示した。
6．遺物拓影図は、向かって左側に内面を、右側に外面を、下側に底面を示した。ただし、外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。
7．遺物の種別のうち、弥生時代後期後半から古墳時代前期に属する土器は、すべて「土師器」と表記した。
8．遺構実測図および遺物出土状況図中に掲載した遺物は、断面図を「黒塗り」、投影図を「白抜き」で示した。
9．土層断面図の層位番号は、基本土層と共通するものはローマ数字、個別の遺構覆土の層位はアラビア数字で示した。
10. 遺物観察表法量の［　］の値は残存部からの推定値を示す。
11. 遺物実測図および遺物写真図版の縮尺はすべて 1/3 に統一した。
12. 遺構実測図の縮尺はすべて挿図中に示した。
13. 遺物実測図および遺物写真図版の個別番号のうち、「①」のように示した遺物は出土状況図中に出土地点を示した資料であり、遺物出土状況図中の「①」に対応している。一方、「1」のように示したものは一括取り上げ資料であり、遺物出土状況図に出土地点を示していない資料である。
14. 標高は、T．P（東京湾中等潮位）を基準とした。
15. 遺構実測図の水糸レベルは全て標高 2.50m に統一した。
16. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

　なお、遺構外出土遺物については、遺跡略号、調査次、取り上げ年月日のみを記載した。

目　　次

巻頭図版
はじめに
例　言／凡　例
目次／挿図目次／挿表目次／図版目次
第 1 章　調査に至る経緯と経過
　第 1 節　調査に至る経緯 ・・・

挿図目次

第 1 図　埼玉県の地形 ・・・・・・・・ 4
第 2 図　戸田市域の地形 ・・・・・・・ 5
第 3 図　鍛冶谷・新田口遺跡及び周辺の遺跡位置図 ・・・・・・・・・・・・・・ 6
第 4 図　鍛冶谷・新田口遺跡調査区位置図 ・・・・・・・・・・・・・・ 8
第 5 図　調査区遺構検出面等高線図 ・ 11
第 6 図　基本土層図 ・・・・・・・・・ 12
第 7 図　調査区全体図 ・・・・・・・・ 13
第 8 図　第 1 号竪穴住居跡実測図（SI01）・・・・・・・・・・・・・・ 15
第 9 図　第 1 号竪穴住居跡出土遺物実測図（SI01）・・・・・・・・・・・・・・ 15
第 10 図　第 1 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX01）（1）・・・・・ 17
第 11 図　第 1 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX01）（2）・・・・・ 18
第 12 図　第 1 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX01）（1）・・・・・・・・・・ 18
第 13 図　第 1 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX01）（2）・・・・・・・・・・ 19
第 14 図　第 2 号周溝状遺構実測図（SX02）（1）・・・・・・・・・・・・・・ 22
第 15 図　第 2 号周溝状遺構実測図（SX02）（2）・・・・・・・・・・・・・・ 23
第 16 図　第 2 号周溝状遺構遺物出土状況図（SX02）（1）・・・・・・・・・・ 24
第 17 図　第 2 号周溝状遺構遺物出土状況図（SX02）（2）・・・・・・・・・・ 25
第 18 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（1）・・・・・・・・・・ 26
第 19 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（2）・・・・・・・・・・ 27
第 20 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（3）・・・・・・・・・・ 28
第 21 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（4）・・・・・・・・・・ 29
第 22 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（5）・・・・・・・・・・ 30
第 23 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（6）・・・・・・・・・・ 31
第 24 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（7）・・・・・・・・・・ 32
第 25 図　第 3 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX03）・・・・・・・・・ 40
第 26 図　第 3 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX03）・・・・・・・・・・・・・・ 40
第 27 図　第 4 号周溝状遺構出土遺物実測図・遺物出土状況図（SX04）（1） 42
第 28 図　第 4 号周溝状遺構出土遺物実測図・遺物出土状況図（SX04）（2） 43
第 29 図　第 4 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX04）・・・・・・・・・・・・・・ 43
第 30 図　第 1 号溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SD01）・・・・・・・・・・ 46
第 31 図　第 1 号溝状遺構出土遺物実測図（SD01）・・・・・・・・・・・・・・ 47
第 32 図　ピット実測図（P01 ～ P11）・ 48
第 33 図　ピット実測図（P12 ～ P15・P17 ～ P24）・・・・ 49
第 34 図　ピット出土遺物実測図（P03・P10・P18・P19）・・・・・ 50
第 35 図　遺構外出土遺物実測図 ・・・ 51
第 36 図　第 2 号周溝状遺構 南部集中地点埋没過程模式図 ・・・・・・・・・・ 56

挿表目次

第１表　鍛冶谷・新田口遺跡周辺遺跡の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第２表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第３表　第１号周溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第４表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（１） ・・・・・・・・・・・・・・・ 33
第５表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（２） ・・・・・・・・・・・・・・・ 34
第６表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（３） ・・・・・・・・・・・・・・・ 35
第７表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（４） ・・・・・・・・・・・・・・・ 36
第８表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（５） ・・・・・・・・・・・・・・・ 37
第９表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（６） ・・・・・・・・・・・・・・・ 38
第10表　第３号周溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第11表　第４号周溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第12表　第１号溝状遺構出土遺物観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第13表　ピット計測表 ・・・・・・・・・・ 50
第14表　ピット出土遺物観察表 ・・・・・ 51
第15表　遺構外出土遺物観察表 ・・・・・ 52
第16表　遺物出土点数・重量一覧 ・・・・ 53

図版目次

図版１
　１　調査区全景（１）（東から）
　２　調査区全景（２）（西から）

図版２
　１　遺構検出状況（１）（南東から）
　２　遺構検出状況（２）（西から）

図版３
　１　SI01 構造面完掘（北から）
　２　SX01・SD01 完掘（南西から）

図版４
　１　SX01・SD01 完掘（２）（北西から）
　２　SX01-No.1 出土状況（南から）

図版５
　１　SX01-No.2 遺物出土状況（北から）
　２　SX02 完掘（南東から）

図版６
　１　SX02 北部集中地点遺物出土状況（南西から）
　２　SX02-No.28 遺物出土状況（南東から）

図版７
　１　SX02 北部集中地点遺物出土状況（南から）
　２　SX02 北部集中地点遺物出土状況（北から）

図版 8
1　SX02 南部集中地点遺物出土状況（南から）
2　SX02 南部集中地点遺物出土状況
（南西から）

図版 9
1　SX02-No.1 遺物出土状況・SX02 SPA-SPA' 断面（南西から）
2　SX02 SPB-SPB' 断面（南西から）

図版 10
1　SX03 完掘（西から）
2　SX03-No.1 位物出土状況（南から）

図版 11
1　SX04 完掘（南東から）
2　発掘調査風景（1）
3　発掘調査風景（2）
4　発掘現場説明会（1）
5　発掘現場説明会（2）

図版 12
出土遺物写真（1）

図版 13
出土遺物写真（2）

図版 14
出土遺物写真（3）

図版 15
出土遺物写真（4）

図版 16
出土遺物写真（5）

図版 17
出土遺物写真（6）

図版 18
出土遺物写真（7）

図版 19
出土遺物写真（8）

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

平成26年11月、個人事業者（以下「事業者」という）から戸田市教育委員会（以下「市教育委員会」という）に対し、戸田市上戸田５丁目27番３における152.58㎡の戸建居住専用住宅建設事業計画と埋蔵文化財の取扱いについて相談があった。

市教育委員会では、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（鍛冶谷・新田口遺跡）に所在しており、建設工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対し工事着手前に試掘確認調査を実施するよう指導した。

これを受け、平成26年11月30日に事業者から市教育委員会に対し試掘確認調査の依頼書が提出され、試掘確認調査を実施することとなった。

試掘確認調査は、市教育委員会が平成27年２月25日に実施し、古墳時代前期の周溝状遺構、竪穴住居跡、ピットとこれに伴う土師器を確認した。

この調査結果に基づき、事業者、市教育委員会間で埋蔵文化財の保存について協議を行い、基礎工事等で埋蔵文化財の破壊を免れない部分（90.60㎡）については記録保存のための緊急発掘調査、他の部分（61.98㎡）については遺構検出面から30cm以上の保護層を確保することにより埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

平成27年３月13日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、平成27年３月17日付戸教生第1394号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」という）あてに進達した。

文化財保護法第93条の届出を受けて、県教育委員会から事業者に対し、平成27年３月30日付教生文第５－1793号で、申請地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査の実施にあたり、事業者は市教育委員会に対し、平成27年３月13日付で発掘調査の依頼書を提出した。また、同日付戸教生第1386号にて二者による「戸建専用住宅建設事業予定地にかかる埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第99条の規定に基づき、市教育委員会から県教育委員会あてに平成27年３月17日付戸教生第1395号にて埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、鍛冶谷・新田口遺跡第10次発掘調査を実施することとなった。

第２節　発掘調査と整理作業の方法と経過

１　発掘調査

鍛冶谷・新田口遺跡第 10 次発掘調査は、平成 27 年４月６日から平成 27 年５月７日までの期間で実施した。発掘調査面積は 90.60 ㎡である。

発掘調査の開始に先立ち、平成 27 年４月２日に発掘調査機材の搬入および調査区の設定、仮囲いを実施した。調査機材や調査用具、出土遺物については、調査区が狭小であり調査区内に保管することが出来なかったため、新田口町会から町会会館倉庫を借用し、保管を行った。

４月６日から本格的に発掘調査を開始し、重機による表土掘削を実施した。掘削した表土は調査区内に仮置きすることができなかったため、ダンプを用いて調査区外へ搬出し、調査終了後に再び調査区内に搬入するという方法を採用した。

４月７日、８日は雨天により作業中止。９日からは調査補助員を動員して遺構確認作業、遺構検出状況の写真撮影を実施した。写真撮影は全てデジタル一眼レフカメラ Nikon D5100 を使用し、RAW（NEF）形式および JPEG 形式にて撮影、記録した。また、同日に業者委託により測量用基準杭の打設を行うとともに、市都市整備部道路課から借用した光波測距儀を用いて４m 四方の小グリッドの設定を行った。10 日には検出遺構のナンバリング、調査区概略図の作成、土層確認用ベルトの設定を行った後、遺構掘削を開始した。遺構掘削によって排出した土は、調査区南東隅に仮置きした。13 日、14 日、20 日午前は雨天により作業中止。15 日から 27 日は遺物取り上げや写真撮影、実測図作成等の遺構精査を実施した。遺物出土状況図、遺構断面図、遺構平面図は、全て簡易遣り方測量にて作成した。22 日、23 日には調査区全体のレベリングを行い、等高線図を作成した。27 日までに遺構掘削は全て完了し、28 日には調査区全体の清掃と調査区全景写真、遺構完掘状況の撮影を行った。29 日は発掘現場説明会を行い、市内外からの見学者 86 名に対して、発掘調査成果の説明を行った。

30 日は遺構内のレベリングと撤収に向けた機材の整理、土嚢崩しを行い、調査補助員を含めた作業の最終日とした。５月１日は、調査員のみで図面や出土遺物、台帳類の最終的な確認を行った。そして、連休を挟み、７日に調査機材の撤収を行い、調査区内の埋め戻し、整地を実施して全ての発掘調査を完了した。発掘調査現場作業に要した実働日数は 16.5 日間であった。

２　整理作業

当該調査にかかる出土遺物及び図面の整理作業、報告書作成作業は平成 27 年５月 11 日から平成 28 年３月 15 日まで、生涯学習課埋蔵文化財整理室および戸田市役所生涯学習課執務室で実施した。

発掘現場で採取した遺物は、洗浄・註記を行い、接合作業を実施した。その後、報告書掲載遺物の抽出を行い、抽出した遺物については実測図作成、拓影採取を行った。採取した拓影は、スキャナにてコンピュータに取り込んだ後、Adobe Photoshop にて修正を行い、デジタルデータ化した。

作成した遺物実測図、発掘現場で作成した遺構平面図、断面図等の図面類についても、拓影と同様にスキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化を行った。そして、これらの各種図面データはAdobe Illustratorにてデジタルトレースを行った。

遺物写真については、Nikon D5100および105mm単焦点マクロレンズを使用してRAW(NEF)形式で撮影した。その後Adobe Camera RawおよびAdobe Photoshopを用いて現像処理およびホワイトバランス、色調等の補正を行い、TIFF形式データを作成、さらに縮尺、背景等の調整を実施した。

全てのデータが完成した後、Adobe IllustratorおよびAdobe InDesignにて版下を作成し、INDD形式ファイルにて入稿した。

第２章　周辺環境と遺跡・調査の概要

第１節　地理的環境

鍛冶谷・新田口遺跡が所在する戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約 6.0km、南北約 3.0km、面積 18.17 ㎢の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市と川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市と和光市、南の東京都板橋区と北区には荒川を隔てて接している。市域には国道 17 号線（中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、また首都高速５号線や東京外郭環状道路、JR 埼京線の開通により、交通の利便性が高まり急激な市街地化が進んでいる。また、都心に近い立地のため、工場や流通センターなども数多く所在する。

戸田市の地形は、埼玉県西部の山地に端を発する荒川によって形成された平坦な沖積低地（荒川低地）が全域を占める。荒川は氾濫や流路の変更によって、市域の中央部を西から東にかけて自然堤防を形成している。この自然堤防は荒川旧河道に沿うように発達し、戸田市域では美女木から笹目を通り、本町、上戸田を抜けて川口市へと断続的に延びている。

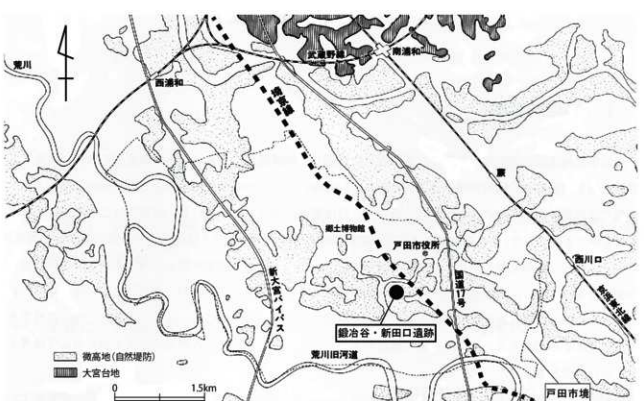
鍛冶谷・新田口遺跡は JR 埼京線戸田駅と戸田公園駅の中間部、上戸田３・５丁目、本町３丁目、大字新曽を中心に広がる遺跡である。遺跡は、西は上戸田川によって分断され、東は緩やかな谷が入り組む「C 字」状の微高地上に立地する。遺跡が広がる範囲の標高は、自然堤防上の最も高い地点で約 3.9m、東側谷部の最も低い地点で約 2.7m である。この比高差は 1.2m 程度であるため、周辺では土地の起伏を感じさせないほど平坦な地形が広がっている。

第１図　埼玉県の地形

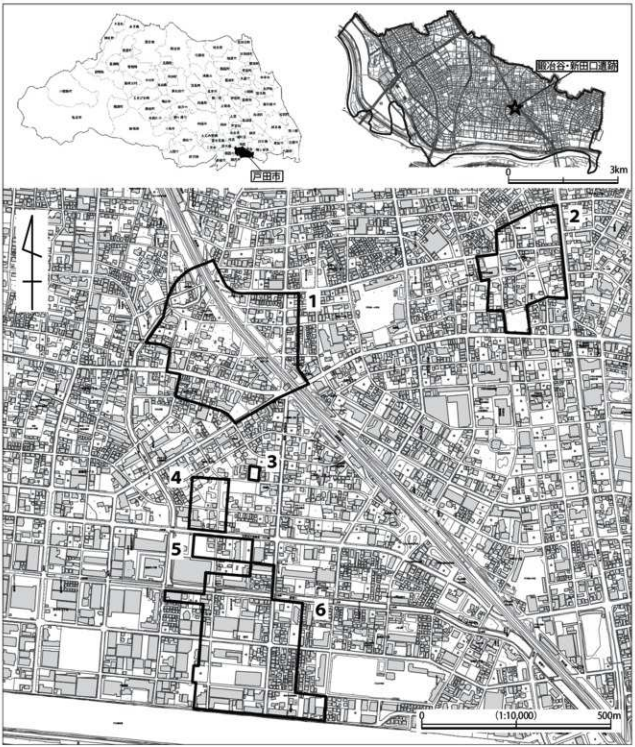
第２節　歴史的環境

戸田市では旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、過去の生活の痕跡が見え始めるのは縄文時代からである。現在、縄文時代に帰属する遺跡は確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が確認されている。縄文時代前期では、堤外から前期後葉諸磯ａ式の破片資料１点が出土しており、本町からは前期末十三菩提式深鉢形土器の大型破片１点が出土している。縄文時代中期では、中葉から後葉にかけての遺物が出土している。鍛冶谷・新田口遺跡では勝坂式や加曽利Ｅ式の破片資料の出土が報告されており、南原遺跡でも阿玉台式や加曽利Ｅ式期の土器片が微量ながら検出されている。縄文時代後期は、前葉から中葉にかけての遺物が検出されており、鍛冶谷・新田口遺跡では堀之内式、加曽利Ｂ式の土器片が出土し、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。

縄文時代後期後葉から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期から古墳時代前期になると、戸田市域の自然堤防上に多くの遺跡が形成されるようになる。弥生時代後期から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡、根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、２次・３次調査において環濠と思われる溝状遺構と、溝の東部に密集する竪穴住居群を検出しているため、遺跡周辺に当該期の環濠集落が存在した可能性が高い。



第２図　戸田市域の地形



第３図　鍛冶谷・新田口遺跡及び周辺の遺跡位置図

第１表　鍛冶谷・新田口遺跡周辺遺跡の概要

NO.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	鍛冶谷・新田口遺跡	戸田市上戸田３・５丁目、本町３丁目、大字新曽	集落跡	弥生後期・古墳前期	自然堤防
2	前谷遺跡	戸田市上戸田２丁目	集落跡・城館跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	自然堤防
3	大前遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	自然堤防
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡・円墳	古墳後期	自然堤防
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	自然堤防
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉	自然堤防

古墳時代中期の遺構・遺物が検出された遺跡は少なく、南原遺跡２次調査Ｂ区で竪穴住居跡３基、９次調査で井戸跡１基、10次調査で竪穴住居跡１基と土坑２基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内にはかつて「くまん塚」と呼ばれた古墳が所在した。「くまん塚」は円墳で、墳丘の盛土が僅かに残存していたとされ、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀２振が出土したと言われている。また、上戸田本村遺跡では１次調査において鬼高式期の竪穴住居跡２基、４次調査において馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝（上戸田本村１号墳）が１基検出され、南原遺跡では１・２次調査で古墳周溝２基（南原１号墳・南原２号墳）、３次調査Ｄ区で鬼高式期の竪穴住居跡１基と屋外竈１基、４次調査で古墳周溝２基（南原３号墳・南原４号墳）、６次調査で古墳周溝１基（南原５号墳）、８・９次調査で古墳周溝２基（南原６号墳・南原７号墳）が検出されている。なお、埴輪が伴う古墳は上戸田本村１号墳、南原１号墳、南原７号墳であり、人物埴輪、馬形埴輪、家形埴輪、靱形埴輪、円筒埴輪が出土している。

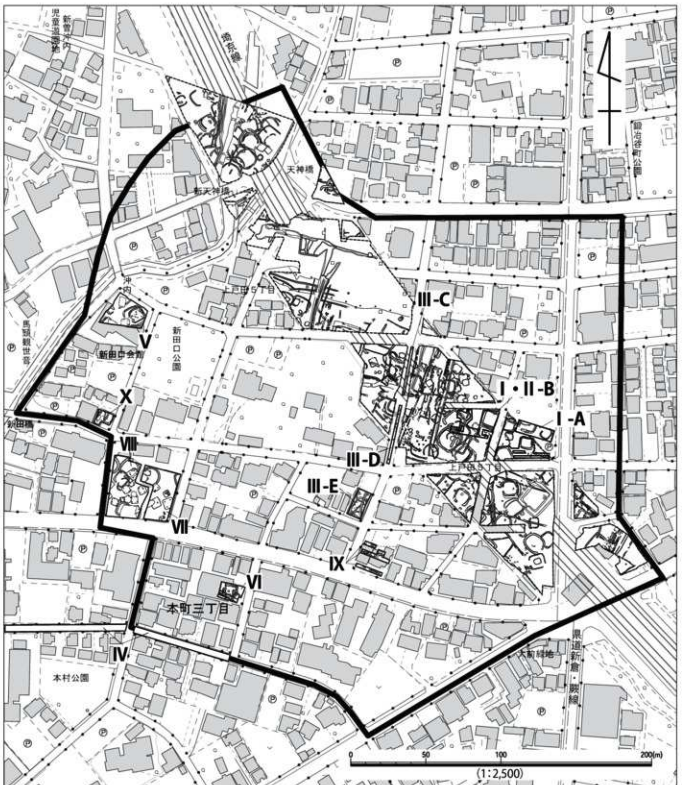
平安時代では、南原遺跡や鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、ピット列等が検出されている。前谷遺跡では２・４次調査において瓦塔片が出土していることから、９世紀頃に調査区周辺に仏堂施設を有する集落が存在していた可能性が指摘されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部の地域がかつての佐々目郷（篠目・笹目）に該当し、鎌倉鶴岡八幡宮の社領であったことが文献史料からわかっている。当該期では、大前遺跡や前谷遺跡、上戸田本村遺跡、南原遺跡、南町遺跡、美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡や溝状遺構、井戸跡が検出されている。前谷遺跡や南原遺跡、上戸田本村遺跡からは断面が薬研形の溝状遺構が検出されていることから、『新編武蔵国風土記稿』の桃井播磨守の居城であったとされる「戸田の御所」との関連が指摘されるが、未だその明確な位置や検出された遺構との関係性については明らかになっていない。

近世は、戸田市域の大半の村々が幕府の直轄領であり、徳川家の鷹場として使用されていたことがわかっている。また、江戸五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡るための「戸田の渡し」が板橋宿と蕨宿を結ぶ交通の要衝として機能していたことが文献史料からわかっている。

第３節　遺跡・調査の概要

鍛冶谷・新田口遺跡の名称は、この地域がかつて「鍛冶谷（屋）」、「新田口」と呼ばれていた二つの地域に所在していたことに由来する。この遺跡は昭和42年に戸田市で最初の発掘調査が行われた遺跡であり、昭和51年には弥生時代から古墳時代に低地に形成された稀有な集落遺跡として、埼玉県選定重要遺跡に選定されている。また、昭和57年から60年には東北・上越新幹線および埼京線敷設に伴う大規模な発掘調査が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下



Ⅰ　第１次調査（1967）：戸田市教育委員会調査（塩野ほか 1968・塩野ほか 1969）
Ⅱ　第２次調査（1968）：戸田市教育委員会調査（塩野ほか 1969）
Ⅲ　第３次調査（1982）：戸田市教育委員会調査（伊藤ほか 1984）
Ⅳ　第４次調査（1983）：戸田市教育委員会調査（未報告）
Ⅴ　第５次調査（1989）：戸田市遺跡調査会調査（小島 1990）
Ⅵ　第６次調査（1992）：戸田市遺跡調査会調査（小島 1994）
Ⅶ　第７次調査（1997）：戸田市遺跡調査会調査（小島 2001）
Ⅷ　第８次調査（1999）：戸田市遺跡調査会調査（小島 2005）
Ⅸ　第９次調査（2015）：戸田市教育委員会調査（岩井ほか 2015）
Ⅹ　第10次調査（2015）：戸田市教育委員会調査（本報告）
□　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査（1982 ～ 1985）（西口ほか 1986）

第４図　鍛冶谷・新田口遺跡調査区位置図

「事業団」という）によって行われ、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や竪穴住居群、またこれに伴う大量の遺物の検出により、当該期の大規模な低地式集落の発掘調査事例として注目を集めた。

鍛冶谷・新田口遺跡は、本調査を含めてこれまでに11回に渡る発掘調査が行われている。市教育委員会調査が6回、戸田市遺跡調査会調査が4回、事業団調査が1回である。なお、下記の「周溝状遺構」は報文中では「方形周溝墓」と記載されていることがあるが、表記を統一するために「周溝状遺構」の語を使用していることを付記しておく。

第1次調査は、鯉のぼりのポールを建てる際に偶然土器の破片が発見されたことをきっかけとし、市教育委員会が学術調査として昭和42年8月6日から12日までの期間で実施した。発掘調査はA区、B区の2地点において行われ、A区では弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構3基、B区では同時期の周溝状遺構2基と竪穴住居跡1基が検出された。周溝状遺構から出土した土器は遺存状態が良好であり、S字口縁を有する甕形土器をはじめとする東海地方系の土器も出土した。また、竪穴住居跡の貯蔵穴からは甕セットが略完形で出土した。

第2次調査は、第1次調査の継続調査として戸田市教育委員会が昭和43年7月26日から8月2日までの期間で実施した。第2次調査A区は第1次調査A区の南側に設定され、ここから弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構2基が検出された。また、第2次調査B区は第1次調査B区を東西へ拡張するように設定され、第1次調査で既に検出されていたものを含め計7基の周溝状遺構が検出された。

事業団の調査は、東北・上越新幹線、埼京線敷設工事に伴う緊急発掘調査として、昭和57年4月から昭和60年3月までの約3年間に渡って実施された。なお、市教育委員会による第1次・第2次調査区は、この調査で再調査が行われている。調査で検出された遺構は、竪穴住居跡37基、周溝状遺構95基、井戸跡82基、土坑166基、溝状遺構232条である。竪穴住居跡、周溝状遺構は全て弥生時代後期から古墳時代前期に帰属するものであり、当該期の集落の大部分が発掘された重要な調査事例となっている。

第3次調査では、下水道整備工事に伴う緊急発掘調査としてC・D区が、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査としてE区が調査された。発掘調査は市教育委員会が主体となり、昭和57年10月5日から30日までの期間で実施した。C区からは溝状遺構5条、D区からは溝状遺構4条と土坑7基を検出した。これらのうち、C区の溝状遺構2条は事業団による調査によって、同一の周溝状遺構に帰属するものであることが判明している。また、D区の溝状遺構2条についても、それぞれが周溝状遺構の一部であったことが判明している。E区からは周溝状遺構3基と溝状遺構4条が検出された。特に第2号周溝状遺構からは、良好な遺存状態で弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。

第4次調査は昭和58年に市教育委員会が実施したが、調査内容については不明である。

第5次調査は、事務所建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成元年2月1日から2月23日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構2基、竪穴住居跡2基や土坑1基、溝状遺構7条が検出された。周溝状遺構は1辺を重複し

て入れ子状に検出され、周溝の内側に環状に巡るピット列と方形に並ぶ4基のピットが確認された。周溝状遺構が「周溝を有する建物」であった可能性を示唆する調査事例である。検出された竪穴住居跡はいずれも焼失住居であり、炭化材等が多く検出された。

第6次調査は、寄宿舎建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成4年1月16日から2月26日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構1基、溝状遺構1条、土坑1基、近世（18～19世紀）の土坑1基、堀跡1条が検出された。周溝状遺構は、段および溝中土坑と思われる掘り込みを有するものである。

第7次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成9年9月20日から11月27日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡6基、周溝状遺構2基、土坑4基が検出された。竪穴住居跡は計6基のうち5基から多量の炭化物が検出されており、焼失住居であった可能性が指摘されている。周溝状遺構は、第1号周溝状遺構が略円形を呈しており、溝中土坑からは良好な遺存状態で土器が出土している。また、第2号周溝状遺構は覆土中層に多量の炭化物が混入している箇所が見られ、周辺から良好な遺存状態で土器が出土している。第3号土坑・第4号土坑からは比較的多量の土器が出土しており、小型の坩形土器やS字口縁甕形土器、頸部に凸帯を有する壺形土器が出土している。

第8次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成11年7月21日から9月21日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡12基、周溝状遺構7基が検出された。第1・2・3・7号周溝状遺構では、覆土中に焼土や炭化物の分布が確認されている。また、第3号周溝状遺構からは頸部に凸帯を有する壺形土器が出土している。

第9次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が平成27年1月6日から平成27年1月29日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構5基、溝跡1条、土坑1基、ピット4基、中世の溝跡1条、井戸跡4基、土坑1基、近世の溝跡5条、井戸跡2基、土坑3基、ピット2基が検出された。中世の第3号溝跡と第2号井戸跡は「排水施設」であった可能性があり、また、近世の溝跡は地割溝であった可能性があることが指摘されている。

本調査は、事業団調査を除くと第10次目の発掘調査となる。

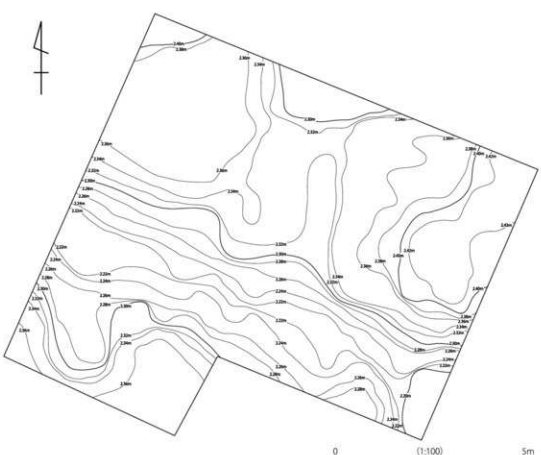
第10次調査区は、鍛冶谷・新田口遺跡の南西部に位置し、C字状の自然堤防の西側縁辺部付近に立地する。遺構検出面の標高は2.20m～2.42mである。遺構検出面は調査区の北東部と北西部がテラス状に高まり、北西から南東に向かって緩やかに谷状に窪む。

今回の調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡1基、周溝状遺構4基、その他溝状遺構1条、ピット24基を検出した。また、これらの遺構に伴い、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、土師器転用砥石、中世の板碑が出土した。特に、第2号周溝状遺構（SX02）からは良好な遺存状態で土器が大量に出土したことが特筆できる。

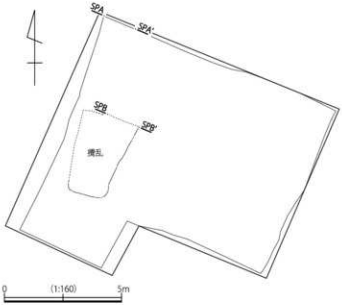
第４節　基本土層

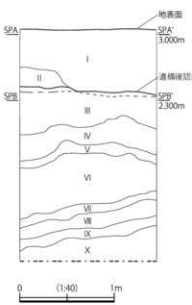
本調査区の基本土層は、遺構確認面より上位は第６図Ｂ－２グリッドSPA－SPA'にて、遺構確認面より下位は第６図Ｂ－３グリッドSPB－SPB'で確認した。地表面の標高は概ね3.10m前後である。表土掘削後の遺構確認面はⅢ層上面であり、標高は2.20～2.42mである。基本土層は地表面下2.45mまで確認し、堆積土をⅠ～Ⅹ層に分層した。

Ⅰ層は現代の攪乱層、Ⅱ層は近代以降の耕作・盛土層である。Ⅱ層は古墳時代前期の土師器片が極微量包含するが、これらは近代以降の掘削行為によって混入したものと考えられる。Ⅲ層以下が自然堆積によって形成された土層である。Ⅲ層上面で遺構を検出したため、ここを遺構確認面に設定した。Ⅲ層以下は酸化鉄粒子・ブロックを含む粘土層あるいはシルト層が主体であるが、Ⅴ層・Ⅶ層・Ⅸ層はより粒子が粗い砂層である。この砂層は調査区西壁断面においても確認していることから、調査区周辺に広域に渡って堆積しているものと考えられる。いずれの砂層も10cm程度の厚さであり、上下の粘土層またはシルト層との境界が明瞭であるため、古墳時代前期以前に河川等の氾濫によって短期間のうちに堆積したものであると考えられる。



第５図　調査区遺構検出面等高線図





基本土層説明（SPA-SPA'・SPB-SPB'）

Ⅰ層　表土攪乱層

Ⅱ層　耕作・盛土層
色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子極微量　その他：遺物（土師器細片）を極微量包含

Ⅲ層　黄褐色粘土層
色調：10YR4/3（にぶい黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黒褐色粘土粒子中量、φ1-5mm 酸化鉄粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量　その他：上面が遺構確認面

Ⅳ層　黄褐色シルト層
色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-5mm 黒褐色粘土粒子微量、φ1-5mm 酸化鉄粒子中量、φ1-2cm 酸化鉄ブロック少量、φ0.1mm 程度白色粒子微量

Ⅴ層　暗オリーブ褐色砂層
色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-5mm 酸化鉄粒子少量

Ⅵ層　黄褐色シルト層
色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-5mm 酸化鉄粒子微量、φ1-3cm 酸化鉄ブロック中量、その他：暗オリーブ褐色土が斑状に混ざる

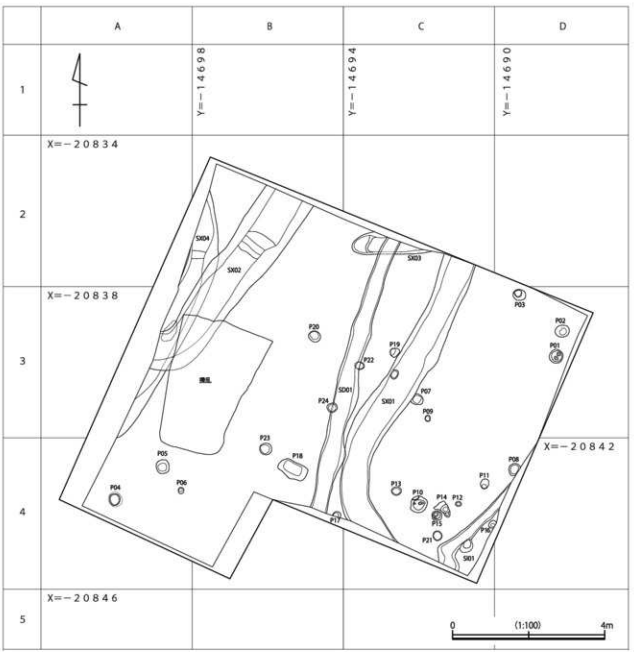
Ⅶ層　暗オリーブ褐色砂層
色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黒褐色粒子極微量、φ1-2mm 酸化鉄粒子極微量、φ0.5-1cm 酸化鉄ブロック微量

Ⅷ層　暗オリーブ褐色シルト層
色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黒褐色粒子極微量、φ1-3mm 酸化鉄粒子少量、φ0.5-1cm 酸化鉄ブロック少量

Ⅸ層　黄褐色砂層
色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 酸化鉄粒子少量、φ0.5-1cm 酸化鉄ブロック少量

Ⅹ層　黄褐色シルト層
色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 酸化鉄粒子少量、φ0.5-2cm 酸化鉄ブロック少量

第6図　基本土層図


A
B
C
D
1
2
3
4
5
Y=−14698
Y=−14694
Y=−14690
X=−20834
X=−20838
X=−20842
X=−20846
SK04
SK02
SK03
P03
P02
P01
P20
P19
P22
P24
SD01
SK01
P07
P09
P23
P18
P05
P06
P04
P08
P11
P13
P10
P14
P12
P15
P21
P17
SD01
0
(1:100)
4m

第７図　調査区全体図

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

１　竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡－ SI01

遺構（第８図　図版３－１）

位置：C・D－４グリッド。

重複関係：なし。

平面形・規模：東側及び南側が調査区外へと続くため推測を含むが、全体の形状は方形状を呈すると考えられる。今回の検出範囲は、南西隅を含む竪穴住居北西壁周辺の一部であると考えられ、北東－南西長は 2.72m を測る。北西辺はやや彎曲するが直線状に延びる。遺構確認面から構造面までの深さは約 0.10m であり、覆土の堆積は薄い。

主軸方位：N － 43° － E。

覆土：SPA － SPA'、SPB － SPB' の２箇所で覆土を観察した。３層は黄褐色粘土ブロックを多く含み、しまりも非常に強いことから、人為的な埋め戻しによって形成された貼り床層であると考える。壁周溝および柱穴（P16）は２・３層を切って掘り込まれるため、２・３層上面が生活面であると判断した。

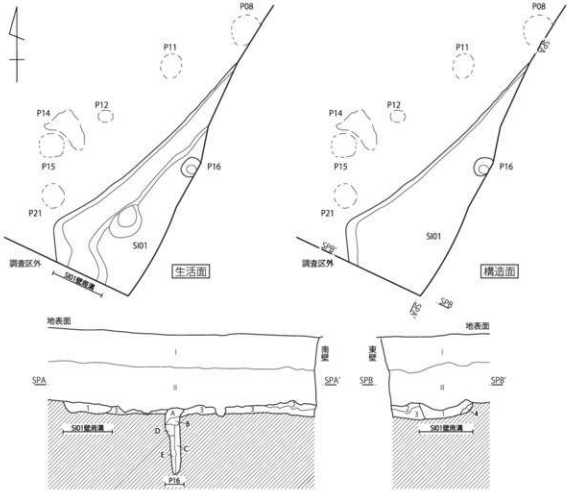
付属遺構：壁周溝と柱穴（P16）を検出した。壁周溝は上端幅 0.24 ～ 0.40m、下端幅 0.16 ～ 0.31m、遺構確認面からの深さ 0.12m 程度で、断面形は皿状を呈する。壁周溝は SI01 の壁に沿って延びるが、中間部でテラス状の張り出し部をもつ。柱穴（P16）は SI01 検出範囲の北東側で検出した。上端幅 0.22m、下端幅 0.09m、遺構確認面からの深さ 0.71m を測る。柱材の残存は確認できなかったが、C 層は粘性が強く、しまりは弱いため、柱痕であった可能性がある。また、竪穴の外壁に沿うように、P08・P11・P12・P14・P15・P21 を検出した。これらのピットが SI01 の付属遺構であることを示す明確な根拠を得ることはできなかったため、その可能性のみ指摘することにする。

遺物（第９図　第２表　図版 12）

出土状況：本遺構からは全部で 33 点、88.6g の遺物が出土した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器片 32 点（86.5g）、礫１点（2.1g）である。遺物の出土数は非常に少なく、出土した土師器のうち 31 点は５g に満たない細片であった。出土遺物のうち、土師器片１点のみを図示した。

時期

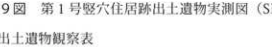
出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SI01 土層説明（SPA-SPA'・SPB-SPB'）
1層　色調：10YR3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1–5mm 黄褐色粘土粒子微量，φ1–4cm 黄褐色粘土ブロック少量，φ1–2mm 暗赤褐色粒子極微量　その他：SI01 壁周溝覆土
2層　色調：10YR2/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子微量，φ1–2cm 黄褐色粘土ブロック少量，φ1–2mm 暗赤褐色粒子極微量，φ1–3mm 炭化物粒子微量
3層　色調：10YR3/3（暗褐色）しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1–5cm 黄褐色粘土ブロック多量，φ1–5mm 暗褐色粒子微量，φ1–3mm 炭化物粒子微量
4層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子微量，φ0.5–1cm 黄褐色粘土ブロック微量

P16 土層説明（SPA-SPA'）
A層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子極微量
B層　色調：10YR3/3（暗褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 暗赤褐色粒子微量　その他：やや砂質
C層　色調：2.5Y3/3（オリーブ褐色）しまり：ふつう　粘性：強い　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子極微量　その他：柱痕の可能性あり
D層　色調：10YR4/3（にぶい黄褐色）しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1–2mm 暗赤褐色粘土粒子微量　その他：やや砂質
E層　色調：2.5Y4/3（オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1–2mm 暗赤褐色粘土粒子微量　その他：やや砂質

第８図　第１号竪穴住居跡実測図（SI01）



第９図　第１号竪穴住居跡出土遺物実測図（SI01）

第２表　第１号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 / 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
9-1	SI01	土師器 壺形	胴部	–	7.1	外面	丁寧なナデ。	φ1mm程度黒色粒子極微量 φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	橙(5YR6/6)	・外面赤彩 ・古墳前期
12-S01–1						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	

2　周溝状遺構

第１号周溝状遺構－ SX01

遺構（第 10・11 図　図版３－２・４－１）

位置：C－２～４グリッド。

重複関係：SD01 に切られ、P07 を切る。

平面形・規模：北側及び南側が調査区外へと続くため推測を含むが、全体の形状は各辺がやや弧状となる隅丸方形状を呈すると考えられる。今回の検出範囲は、隅丸方形の周溝状遺構の西部の一部であると考えられる。検出部の南北長は約 7.50m。

主軸方位：N－ 25°－ E。

周溝：調査区内では南部で角を持つ。上端幅 0.70 ～ 1.00m、下端幅 0.50 ～ 0.68m、確認面からの深さは 0.25 ～ 0.40m。断面形状は逆台形を呈する。壁は急傾斜で立ち上がる。底面はほぼ水平であるが、EPB － EPB' 断面下では底面において小ピット状の掘り込みを検出した。

覆土：SPA － SPA'、SPB － SPB'、SPC － SPC'、SPD － SPD'、SPE － SPE' の５箇所で覆土を観察した。自然堆積を基本とするが、SPB － SPB' の第２・３層は掘り返しが行われた後、埋め戻しが行われたものと考えられる。また、SX01 の底面直上からは、断面がにぶい光沢を帯びる黒色土層の堆積を確認した。

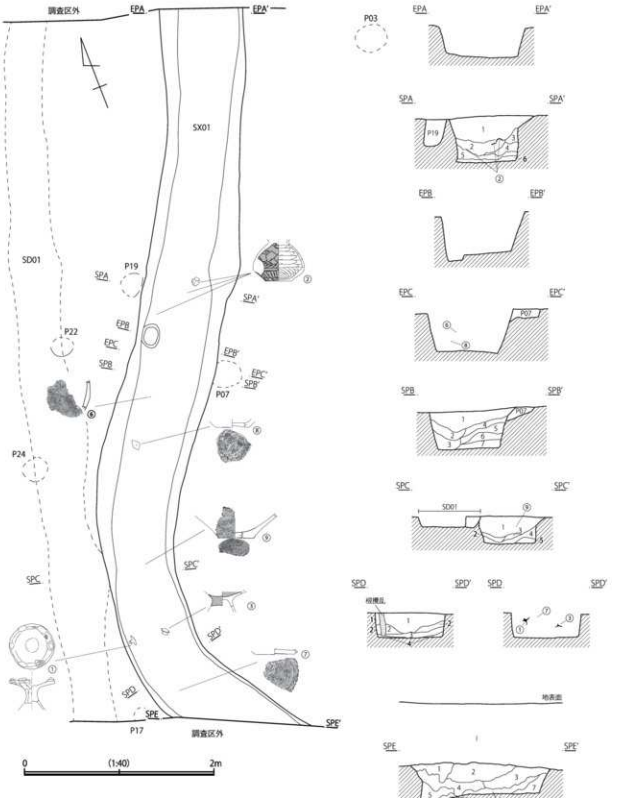
備考：周溝の内側（東側）からは 13 基のピットと１基の竪穴住居跡（SI01）を検出した。これらのうち、P03 は周溝の中心部へ向かう傾きを有するため、SX01 に付属する柱穴である可能性がある。また、周溝の外側（西側）で検出した P19・P22 も P03 同様に周溝の中心部へ向かう傾きを有するため、SX01 に付属する柱穴である可能性がある。

遺物（第 10・12・13 図　第３表　図版４－２・５－１・12）

出土状況：本遺構からは全部で 104 点、1,324.8g の遺物が出土した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器片 99 点（1,292.8g）、礫５点（32.0g）である。これらのうち図示したものは 10 点である。比較的遺存状態が良好な遺物に１、２がある。１は北陸系の器台であり、６箇所のうち５箇所が剥落するが、上面に粘土貼付による突起が付されている。器面調整は非常に丁寧である。周溝の南西角付近、覆土の中腹から横に伏されるような状態で出土した。２は平底の小型壺形土器である。北西辺の中間部付近で、覆土の中腹から横に伏されるような状態で出土した。

時期

出土遺物から古墳時代前期。



第 10 図　第 1 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX01）（1）

SX01 土層説明（SPA-SPA）

1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子少量
2 層　色調：10YR2/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量
3 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量
4 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック中量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量
5 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック多量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量
6 層　色調：10YR2/1（黒色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量

SX01 土層説明（SPB-SPB'）

1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子少量
2 層　色調：10YR2/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量
3 層　色調：10YR2/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック中量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子極微量
4 層　色調：10YR3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量、φ1-2mm 炭化物粒子極微量
5 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子極微量
6 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック微量
7 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量

SX01 土層説明（SPC-SPC'）

1 層　色調：10YR3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量
2 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量
3 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量
4 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量
5 層　色調：10YR3/3（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック少量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量

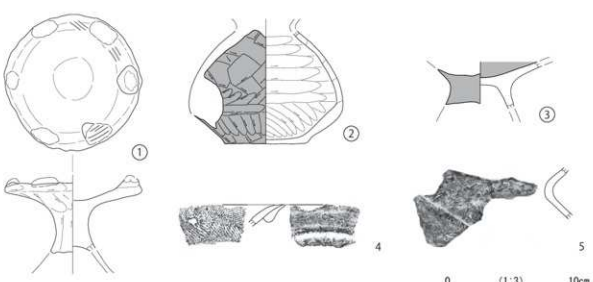
SX01 土層説明（SPD-SPD'）

1 層　色調：2.5Y3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 暗赤褐色粒子少量
2 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量
3 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量
4 層　色調：5Y3/2（オリーブ黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量

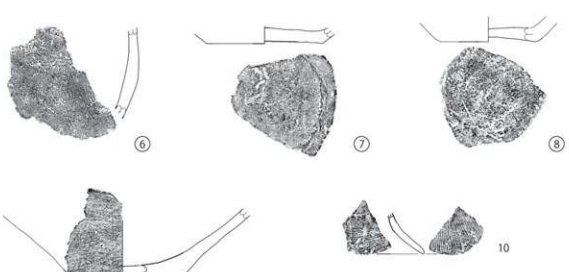
SX01 土層説明（SPE-SPE'）

1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1mm 程度焼土粒子極微量
2 層　色調：10YR3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量、φ0.1mm 程度白色粒子極微量
3 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
4 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量
5 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量、φ0.5cm 程度暗赤褐色ブロック極微量
6 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量
7 層　色調：2.5Y3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック少量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量、φ0.5cm 程度暗赤褐色ブロック極微量

第 11 図　第 1 号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX01）（2）



第 12 図　第 1 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX01）（1）



第 13 図　第 1 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX01）（2）

第 3 表　第 1 号周溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
10-12-1	SX01	土師器 器台形	器受部 ～脚上部	10.9 5.4 ～	176.4	上面	ハケ目（弧状）後楕円形粘土塊(指頭圧痕)を中央に貼付け(内5個斜落)。	φ 1mm程度褐色粒子多量 φ 1mm以下赤褐色粒子微量 φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・北陸系 ・古墳前期
12-SX01-1						外面	ハケ目後丁寧なナデ(横位/縦位)。			内面	灰(10YR6/1)	
10-12-2	SX01	土師器 壺形	胴部	～ 9.0 6.4	133.7	外面	ハケ目(斜位)後ナデ(斜位/横位/縦位)。	φ 1mm程度白色粒子少量 φ 1mm以下黒色粒子微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
12-SX01-2						内面	指ナデ(横位/斜位)。			内面	暗灰黄(2.5Y5/2)	
10-12-3	SX01	土師器 高杯形	坏底部 ～脚台 部	～ 3.7 ～	90.6	外面	～	φ 1mm以下白色粒子少量	良	外面	橙(2.5YR6/6)	・内外面剥落 ・内外面赤彩 ・古墳前期
12-SX01-3						内面	ナデ??			内面	にぶい赤褐(2.5YR5/4)	
12-4	SX01	土師器 壺形	口縁部	～	18.7	外面	口縁部外面粘土紐貼付により複合口縁を作出。	φ 1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・内外面赤彩 ・焼き後開～ 古墳前期
12-SX01-4						内面	単節RL縄文横位/縦位施文による羽状縄文。			内面	灰(5Y5/1)	
12-5	SX01	土師器 広口壺形	口縁部 ～脚上 部	～	28.7	外面	頸部ナデ(横位)。	φ 1mm程度赤褐色粒子微量	良	外面	橙(5YR6/6)	・内外面摩滅 ・古墳前期
12-SX01-5						内面	口縁部ナデ(横位)。			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
10-13-6	SX01	土師器 壺形	胴部	～	74.5	外面	丁寧なナデ。	φ 1mm程度白色粒子少量 φ 1mm程度褐色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・外面赤彩 ・古墳前期
12-SX01-6						内面	ナデ(横位)。			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
10-13-7	SX01	土師器 壺形	底部	～ 1.1 [9.2]	85.1	底面	ナデ。指頭圧痕顕著。	φ 1mm以下白色粒子少量 φ 1～2mm褐色粒子少量	良	底面	黒(5Y2/1)	・古墳前期
12-SX01-7						内面	ナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
10-13-8	SX01	土師器 壺形	底部	～ 1.4 [7.3]	62.1	底面	ヘラケズリにより上げ底を作出。ハケ目(弧状)。	φ 1～2mm褐色粒子中量 φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1mm程度赤褐色粒子微量	良	底面	灰黄(2.5Y6/2)	・古墳前期
12-SX01-8						内面	ハケ目(縦位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	
10-13-9	SX01	土師器 壺形	胴下部 ～底部	～ 5.8 [9.2]	119.6	外面	丁寧なナデ。	φ 1mm以下白色粒子少量 φ 1mm程度褐色粒子少量	良	外面	橙(7.5YR6/6)	・外面赤彩 ・古墳前期
12-SX01-9						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
13-10	SX01	土師器 台付壺形	脚台部	～	9.0	外面	ハケ目(縦位)。	φ 1mm以下白色粒子微量	良	外面	暗灰黄(2.5Y5/2)	・古墳前期
12-SX01-10						内面	ハケ目(縦位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	

第２号周溝状遺構－ SX02

遺構（第 14・15 図　図版５－２・９）

位置：A・B－２・３グリッド。

重複関係：SX04 を切る。

平面形・規模：北側及び西側が調査区外へと続くため推測を含むが、全体の形状は各辺がほぼ直線状に延びる隅丸方形状を呈すると考えられる。今回の検出範囲は、周溝状遺構の南東辺南半および南東角の一部であると考えられる。南東角については、現代の攪乱（ゴミ穴）によって破壊されていた。検出部の北東－南西長は 5.92m。

主軸方位：N － 35° － E。

周溝：調査区内では南部に角を持つ。上端幅 1.00 ～ 1.36m、下端幅 0.62 ～ 0.86m、確認面からの深さ 0.70 ～ 0.85m。断面形状は逆台形を呈する。壁は 55° ～ 80° の角度を測り、急傾斜で立ち上がる。底面はほぼ水平であるが、南へ向かって緩やかに下がる。南東辺中腹の底面では、東西幅 0.65m 程度、南北幅 0.63m、深さ 0.15m 程度の土坑状の段を検出した。

覆土：SPA － SPA'、SPB － SPB'、SPC － SPC'、SPD － SPD' の 4 箇所で覆土を観察した。底面直上の最下層は、いずれもにぶい光沢を帯びた黒色土が堆積する。また、黒色土の直上には、地山の黄褐色粘土ブロックを多く包含した層が堆積する。SPA － SPA' では第７・６層が、SPB － SPB' では第 11・10 層が、SPC － SPC' では第９層がこれに該当する。SPB － SPB' 第 10 層や SPC － SPC' 第９層に見られる大型の地山黄褐色粘土ブロックは周溝の内側（西方）から崩落したものと考えられる。遺構の埋没過程は、西側からの埋土の流入がある程度進んだ後、東側からの堆積が進んだものと考えられる。多くの層から焼土や炭化物、黄褐色粘土ブロックの包含が見られること、また、堆積状況からも、先述した周溝内側からの地山（あるいは盛土）崩落によって形成された層を除き、人為的な埋め戻しによって形成されたものと考える。

遺物（第 16 ～ 24 図　第４～９表　図版６～８・12 ～ 18）

出土状況：本遺構からは全部で 1,005 点、20,173.3g の遺物が出土した。弥生時代後期から古墳時代前期に帰属する弥生土器・土師器 984 点（19,982.0g）、礫 20 点（163.9g）、土師器転用砥石１点（27.4g）である。これらのうち図示したものは 98 点である。SX02 からの出土遺物は、今回の調査による出土遺物総点数の約 75％、総重量の約 80％を占める。

遺構覆土からは大量の土器が出土したが、その大半が上層から中層にかけての出土であり、下層から出土した土器は比較的少なかった。良好な遺存状態で出土した土器にも同様の傾向が認められ、中層以下で出土したものは 31・32 に限られる。また、出土土器には完形のものはなく、全てが破損した状態で出土した点も特筆できる。意図的な底部穿孔等の痕跡を有する壺形土器はなかったが、比較的遺存状態が良い台付甕形土器の多くは脚台部を欠損しており、30 を除いて接合・復元できる個体はなかった。

外来系土器は一定量出土しており、頸部に凸帯を有する壺形土器（7）や S 字口縁甕形土器（43・44）、坩形土器（81 ～ 84）が出土している。その他特徴的な土器としては、口縁部内外に意図

的に指頭圧痕列を施す土器（35・36）、三角形２箇所と円形１箇所の透かし穴が穿たれた高坏形土器脚部（94）、胴下部に小穿孔がなされた小型の壺形土器（28）などが挙げられる。

本遺構からは、第16図に示した２地点から遺存状態が良好な土器が集中して出土した。便宜上、北側の集中地点を「北部集中地点」、南側の集中地点を「南部集中地点」と呼称する。

北部集中地点で出土した土器は、出土レベルがほぼ同じであることからも、ある程度の時間的な一括性が認められる。出土位は横位、逆位があるが規則性は見られない。北部集中地点は周溝底部で検出した段の直上部に位置するが、出土位置が周溝底面から0.80m以上高い位置にあることからも、この段と北部集中地点から出土した土器の関係性は薄いと考えられる。

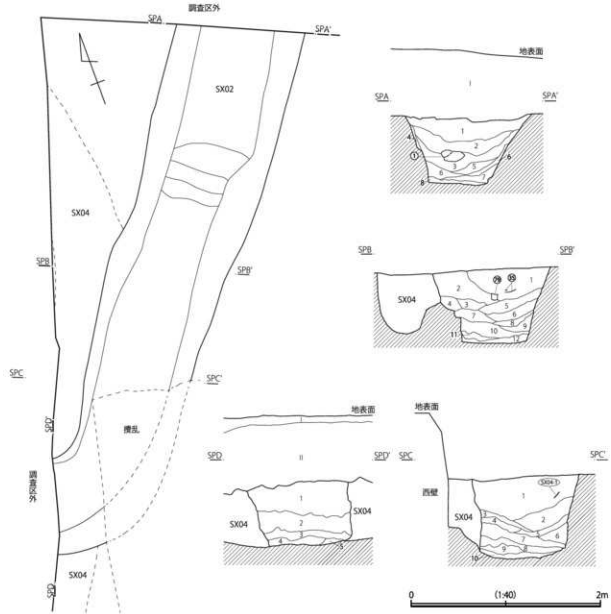
南部集中地点から出土した土器は、それぞれ出土位置・層位に垂直方向の分布差が認められる。36は水平・垂直方向にやや分散して出土した破片が接合したものである。大型破片の出土位置が原位置であろう。南部集中地点で出土した土器は、出土レベルを基準として① 32、② 31、③ 36・13、④ 30の４グループに分けることができる。各グループの土器の出土位置が水平方向に重複しないことからも、これらのグループは埋置行為の単位を示すものと考える。つまり、１グループが配置された後、土器が隠れるまで土を覆いかぶせ、次のグループの土器を配置するという行為が、①→②→③→④の順で繰り返された結果であると考えられる。各グループの甕形土器に着目すると、胴部形状や器面の調整方法に差異が認められる。最下位で出土した32は30・31・36と比較してもより古式の特徴を有する。したがって、この埋置行為がある程度の時間をおいて繰り返し行われた可能性を指摘できる。なお、南部集中地点の土器の埋置行為については、その模式図を第４章第36図に示した。

SX02の覆土には焼土粒子や炭化物粒子が微量混入しているが、その分布は散逸的であり集中分布箇所を見出すことは出来なかった。北部集中地点および南部集中地点周辺においても、焼土や炭化物の集中分布を確認できていないため、土器の埋置に伴って火を焚いたものと判断することは困難である。また、埋土の掘り返しなどが行われた明確な痕跡も確認することはできなかった。

遺構間接合した土器は１個体（SX04 － 1）ある。SX02出土破片１点がSX04出土破片４点と接合した。SX04出土破片の出土位置と比較して、SX02出土破片の出土位置は0.40 ～ 0.50m程度高いため、SX04を破壊してSX02を掘削する際に掘り上げられ、SX02の埋没過程で流れ込んだものと考えられる。本来の帰属はSX04であると考えられるため、SX04の項に掲載した。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SX02 土層説明（SPA-SPA'）

1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ1–2mm 焼土粒子極微量

2 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ1–3mm 炭化物粒子微量

3 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ0.5–1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.1mm 程度白色粒子微量

4 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5–1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子微量

5 層　色調：2.5Y3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ2–3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子微量

6 層　色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1–2cm 黄褐色粘土ブロック少量、φ1–3mm 暗赤褐色粒子少量　その他：中や砂質

7 層　色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1–5cm 黄褐色粘土ブロック多量、φ1–5mm 暗赤褐色粒子微量

8 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1–3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1–2cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ0.5–1cm 暗赤褐色粒子極微量

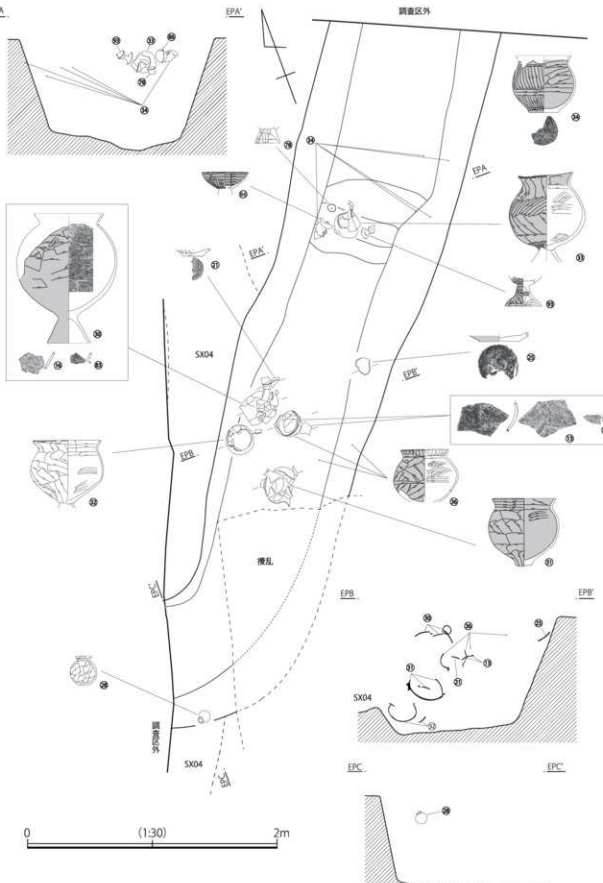
第 14 図　第 2 号周溝状遺構実測図（SX02）（1）

SX02 土層説明（SPB-SPB'）
1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子中量、φ1-2mm 焼土粒子極微量、φ1-5mm 炭化物粒子微量
2 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック中量、φ1-2mm 焼土粒子極微量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
3 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-4mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック極微量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
4 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.5cm 程度暗赤褐色ブロック少量
5 層　色調：10YR3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子少量、φ1-2cm 暗赤褐色ブロック中量、φ1-2mm 焼土粒子極微量
6 層　色調：10YR3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5-1cm 暗赤褐色粘土ブロック微量
7 層　色調：10YR3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-4mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量、φ1-3mm 焼土粒子極微量
8 層　色調：10YR3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ0.5-2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子少量
9 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量
10 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5-3cm 黄褐色粘土ブロック多量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量　その他：大型の黄褐色粘土ブロックが混入
11 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-4mm 黄褐色粘土粒子多量、φ0.5-2cm 黄褐色粘土ブロック多量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
12 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック極微量、φ1-3mm 炭化物粒子微量

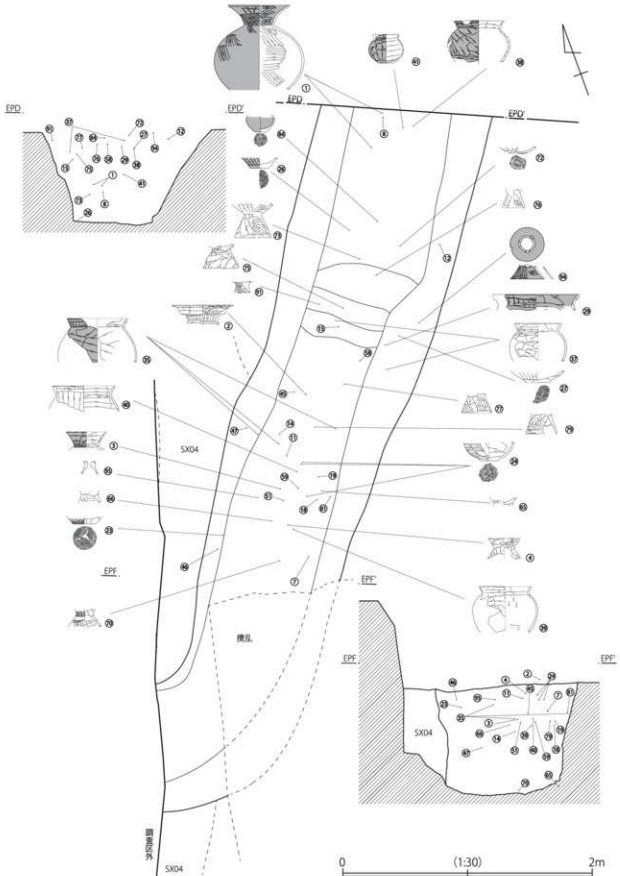
SX02 土層説明（SPC-SPC'）
1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ1-4mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.5-1cm 暗褐色ブロック中量、φ1cm 程度炭化物微量
2 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック少量、φ1-2mm 焼土粒子極微量、φ1-5mm 炭化物粒子極微量
3 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量
4 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量
5 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子多量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子微量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
6 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-5cm 黄褐色粘土ブロック中量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量
7 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック微量、φ1-5mm 炭化物粒子微量
8 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子中量、φ1-3mm 炭化物粒子微量
9 層　色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：強い　粘性：やや弱い　含有物：φ5-10cm 黄褐色粘土ブロック多量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子中量
10 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：やや強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量

SX02 土層説明（SPD-SPD'）
1 層　色調：5YR3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子多量、φ0.1mm 程度白色粒子極微量
2 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-5mm 暗赤褐色粒子中量、φ2-5mm 炭化物粒子微量
3 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量、φ1-2mm 焼土粒子微量、φ1-5mm 炭化物粒子少量
4 層　色調：10YR2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子極微量、φ1-2mm 焼土粒子極微量、φ1-2mm 炭化物粒子微量
5 層　色調：2.5Y5/3（黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 暗赤褐色粒子中量、φ1-3mm 黒色粒子少量　その他：やや粒子が粗い

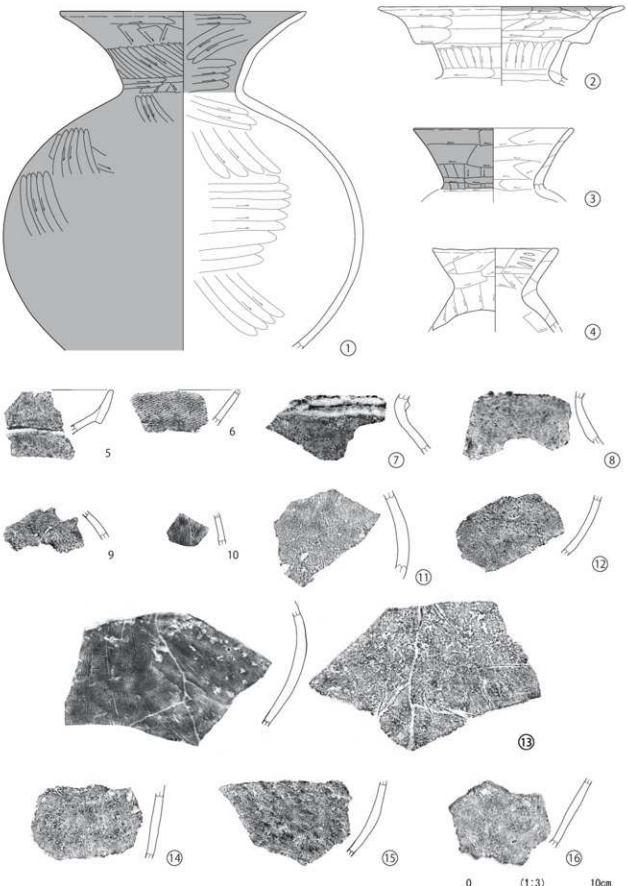
第 15 図　第 2 号周溝状遺構実測図（SX02）（2）



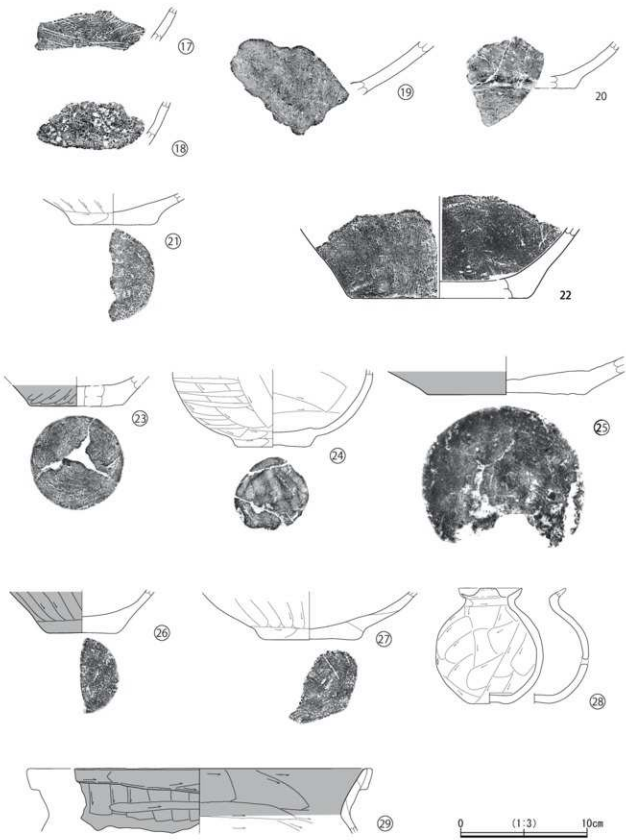
第 16 図　第 2 号周溝状遺構遺物出土状況図（SX02）（1）



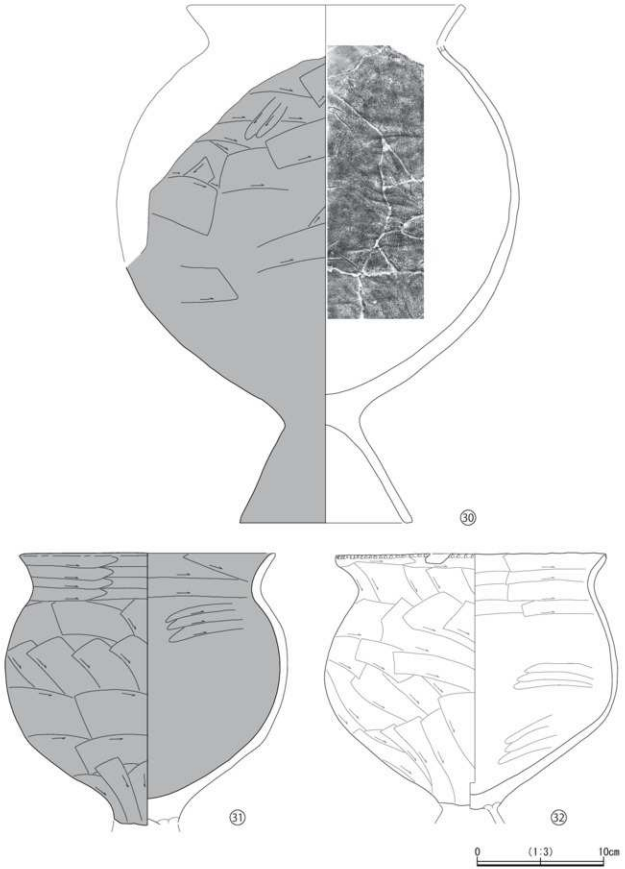
第 17 図　第 2 号周溝状遺構遺物出土状況図（SX02）（2）



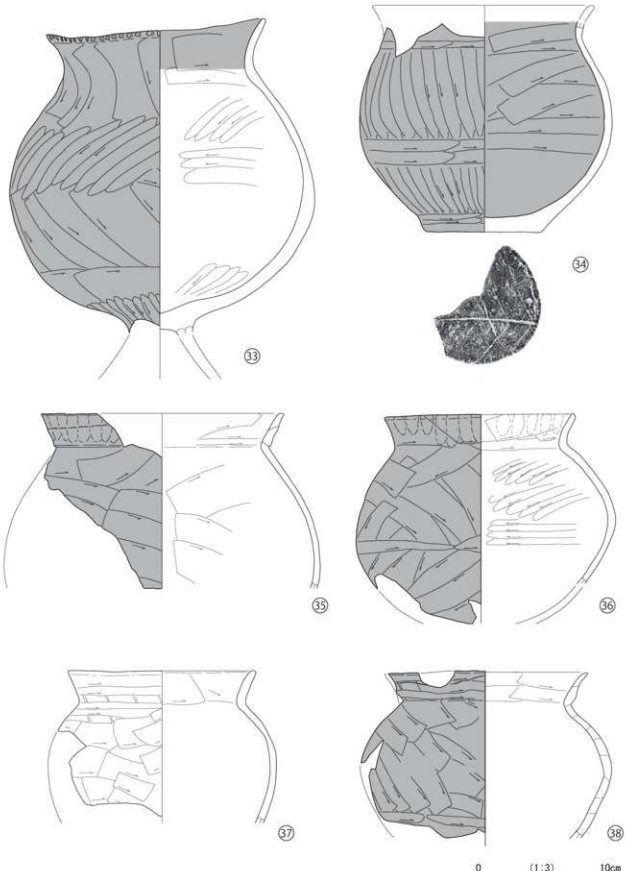
第 18 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（1）



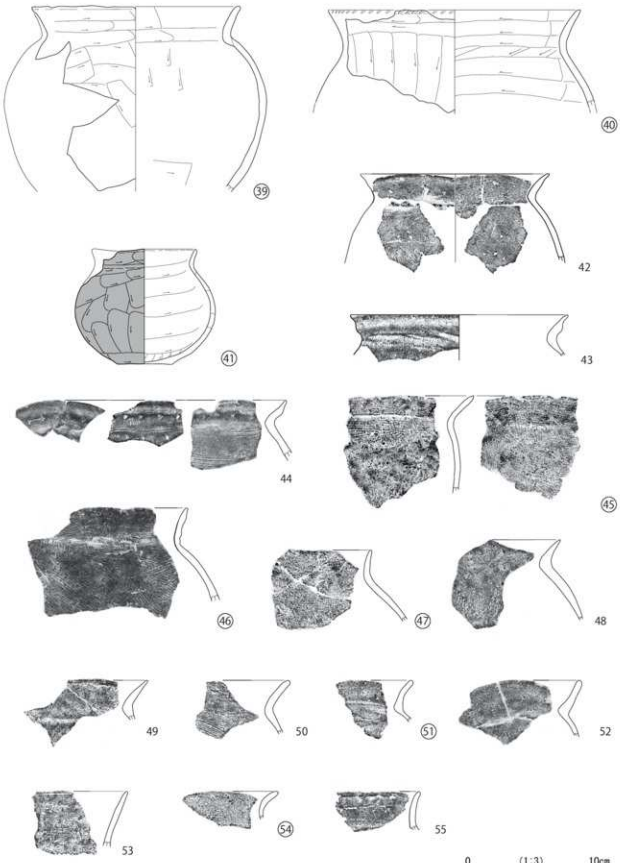
第19図　第２号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（２）



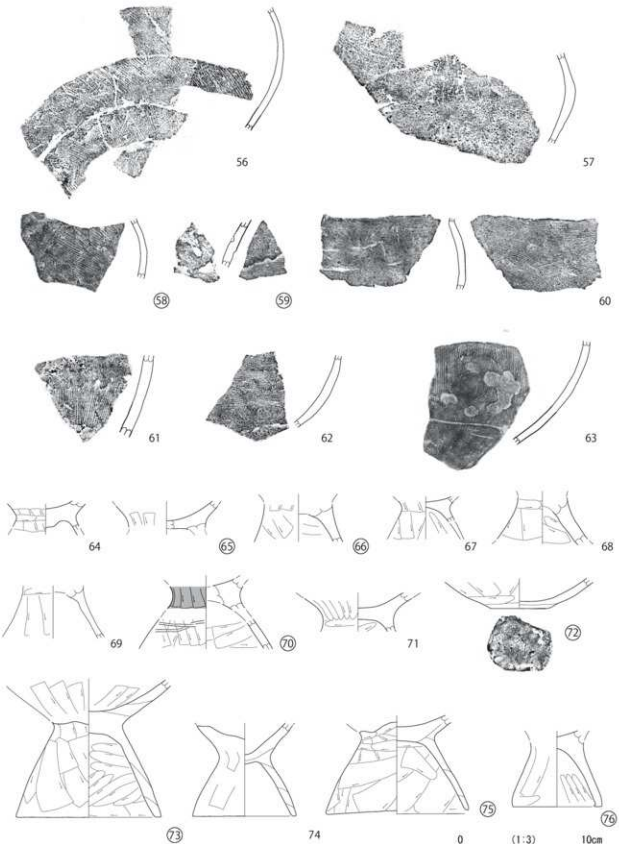
第 20 図　第２号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（３）



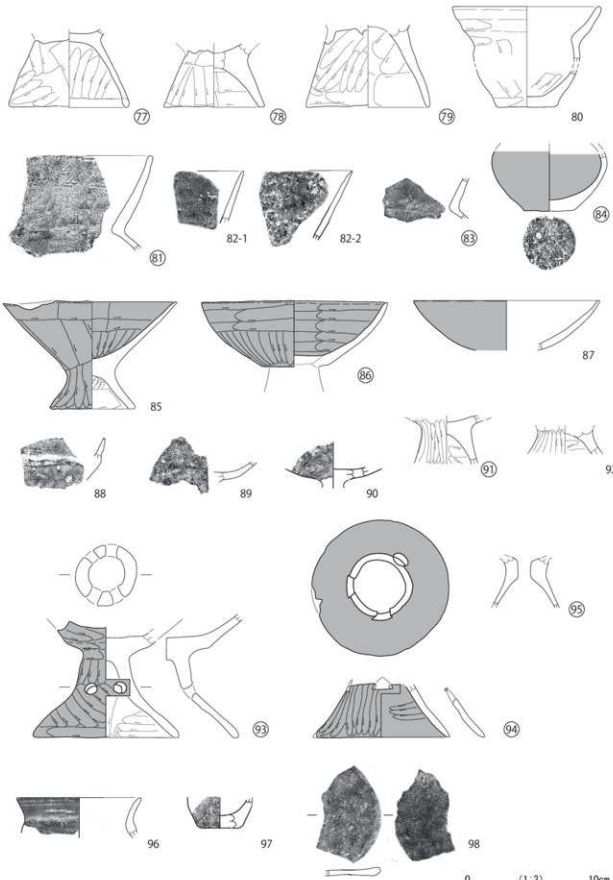
第 21 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（4）



第 22 図　第２号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（５）



第 23 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（6）



第 24 図　第 2 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX02）（7）

第４表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（１）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出土(cm)口径 残存/低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
17-18-1	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴下部	[19.4] 20.9 —	931.2	外面	ハケナデ後丁寧な指ナデ(斜位/磨位/縦位)。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1～2mm褐色粒子微量 φ1～2mm砂粒極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR8/4)	・外面全面、口縁部内面赤彩 ・古墳前期
12-SX02-1						内面	丁寧な指ナデ(横位/斜位)。			内面	にぶい黄橙(10YR8/4)	
17-18-2	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	[19.6] 6.3 —	144.0	口縁部丁寧なナデ(横位)。頸部丁寧なナデ(縦位)。		φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	明赤褐(5YR5/6)	・二重口縁 ・胎土赤味が強い ・口縁部内面黒彩ぶり ・古墳前期
12-SX02-2						内面	口縁部丁寧なナデ(横位)。頸部丁寧なナデ(縦位)。植物種子圧痕あり。			内面	赤褐(5YR4/6)	
17-18-3	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	[12.8] 4.8 —	30.7	外面	口縁部ハケ目(縦位/横位)。頸部ハケ目(縦位)後ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下黒雲母粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR8/3)	・外面黒斑 ・外面赤彩 ・古墳前期
12-SX02-3						内面	口縁部ハケ目(横位)。頸部ナデ(横位)。			内面	灰黄褐(10YR5/2)	
17-18-4	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	[10.0] 6.7 —	117.7	外面	ハケ目(横位/縦位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR5/3)	・古墳前期
12-SX02-4						内面	ハケ目(横位/斜位)。沈線状の平行線あり。			内面	灰黄褐(10YR5/2)	
18-5	SX02	土師器 壺形	口縁部	—	25.2	外面	複合口縁部単節LR縄文を横位→縦位→横位で羽状に3段施文。複合口縁部以下ハケ目(縦位)後丁寧なナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下石英粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR8/4)	・複合口縁 ・弥生後期～古墳前期
12-SX02-5						内面	ハケ目(横位)後丁寧なナデ。			内面	赤褐(10R4/4)	
18-6	SX02	土師器 壺形	口縁部	—	16.6	外面	串状工具による格子目文。	φ1mm以下白色粒子中量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・弥生後期～古墳前期
12-SX02-6						内面	丁寧なナデ。			内面	暗赤(10R3/4)	
17-18-7	SX02	土師器 壺形	頸部	—	65.8	外面	頸部に幅7mm程度の粘土紐を貼付し凸帯を中出。凸帯部以下ナデ。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子微量	良	外面	オリーブ黒(7.5Y3/1)	・外来系土器 ・古墳前期
12-SX02-7						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR7/3)	
17-18-8	SX02	土師器 壺形	頸部	—	40.7	外面	ハケ目(縦位)後ミガキ。885mm粒度の円形浮文貼付。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm赤褐色粒子少量	良	外面	赤褐(10R4/4)	・弥生後期～古墳前期
12-SX02-8						内面	ハケ目(斜位/横位)。			内面	黒(10YR2/1)	
18-9	SX02	土師器 壺形	胴上部	—	13.4	外面	無節RL縄文横位施文後赤彩部ナデ(横位)により縄文磨消。	φ1～2mm赤褐色粒子微量	良	外面	赤赤彩部:灰黄(2.5Y7/2) 赤彩部:暗赤褐色(2.5YR3/6)	・外面赤彩 ・弥生後期～古墳前期
13-SX02-9						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	
18-10	SX02	土師器 壺形	胴部	—	5.1	外面	単軸絡条type1斜位施文→φ1mm程度串状工具による山形文→ナデ→ミガキ。	φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	灰(5Y4/1)	・弥生後期～古墳前期
13-SX02-10						内面	器面剥落。			内面	灰(5Y4/1)	
17-18-11	SX02	土師器 壺形	胴部	—	55.1	外面	ハケ目(縦位)後ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm程度褐色粒子微量 φ1mm以下雲母片極微量	良	外面	にぶい赤橙(5YR5/3)	・外面赤彩かり ・古墳前期
13-SX02-11						内面	幅1.0cm程度ヘラ状工具による ケズリ(縦位)後ナデ(横位)。			内面	灰黄褐(10YR5/2)	
17-18-12	SX02	土師器 壺形	胴部	—	35.1	外面	丁寧なナデ。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下石英粒子極微量	非常に良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
13-SX02-12						内面	ナデ(横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
16-18-13	SX02	土師器 壺形	胴部	—	160.2	外面	ナデ(横位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子微量 φ1～3mm褐色粒子中量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/3)	・54と共伴出土 ・外面黒斑 ・古墳前期
13-SX02-13						内面	ハケ目(横位/縦位)。			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
17-18-14	SX02	土師器 壺形	胴部	—	53.1	外面	丁寧なナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・外面赤彩 ・古墳前期
13-SX02-14						内面	ナデ(縦位/横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
17-18-15	SX02	土師器 壺形	胴部	—	58.1	外面	丁寧なナデ(横位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/3)	・内外面赤彩 ・古墳前期
13-SX02-15						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR7/3)	
16-18-16	SX02	土師器 壺形	胴部	—	39.0	外面	ハケ目(斜位)後ナデ。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm暗赤褐色粒子少量	良	外面	橙(5YR6/6)	・外面黒斑 ・古墳前期
13-SX02-16						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR8/4)	
19-17	SX02	土師器 壺形	胴部	—	27.5	外面	ハケ目(横位/斜位)後ナデ。	φ1mm以下白色粒子微量	非常に良	外面	にぶい褐(7.5YR5/4)	・30十器内覆土から出土 ・胎土赤味が強い ・古墳前期
13-SX02-17						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい褐(7.5YR5/4)	
17-19-18	SX02	土師器 壺形	胴部	—	32.7	外面	丁寧なナデ。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1mm以下黒粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR8/4)	・外面赤彩 ・古墳前期
13-SX02-18						内面	器面剥落。			内面	黄灰(2.5Y5/1)	

第５表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（２）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出墓(cm) 口径 器存/低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
17-19-19 13-SX02-19	SX02	土師器 壺形	胴部	–	77.9	外面	ハケ目(縦位)後ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子極微量	良	外面	暗灰黄(2.5Y5/2)	・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
19-20 13-SX02-20	SX02	土師器 壺形	底部	–	36.1	外面	丁寧なナデ後ミガキか？	φ1～2mm黒色粒子少量 φ1mm以下白色粒子極微量 φ1～2mm褐色粒子極微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・外面下部黒色物多量有 ・外面上部赤彩 ・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
16-19-21 13-SX02-21	SX02	土師器 壺形	底部	– 2.5 6.3	94.8	外面	ナデ(縦位/横位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR5/3)	・粘土痕が顕著 ・古墳前期
						内面	ナデか？			内面	にぶい赤橙(5YR5/4)	
19-22 13-SX02-22	SX02	土師器 壺形	底部	– 5.5 [14.0]	151.4	外面	ハケ目(縦位)後丁寧なナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm程度褐色粒子微量	良	外面	にぶい赤橙(5YR5/4)	・外面赤彩 ・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
17-19-23 13-SX02-23	SX02	土師器 壺形	底部	– 2.3 7.5	141.2	外面	丁寧なナデ(斜位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子極微量 φ1mm以下赤褐色粒子極微量	良	外面	暗灰黄(2.5Y5/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
						内面	ナデ。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	
17-19-24 13-SX02-24	SX02	土師器 壺形	胴下部 ～底部	– 6.2 6.0	172.2	外面	胴下部に幅4～5mmの粗い横位調整(ナデ)と、幅1.0～1.5mmの太い斜位調整(ナデ)を交互様に施す。調整具は不明であるが、小幅等を使用か？一部にミガキ。底部周辺は上横位のナデ、底面はやや上げ底気味に作出し、粗製土板を顕著に残す。	φ1mm以下雲母片極微量	良	外面	灰黄(2.5Y5/2)	・外面黒斑 ・古墳前期か？
						内面	ハケ目(横位/斜位)。			内面	黄灰(2.5Y5/1)	
16-19-25 13-SX02-25	SX02	土師器 壺形	底部	– 3.0 12.5	481.9	外面	側面:ハケ目(縦位)後丁寧なナデ。 底面:丁寧なナデ。やや上げ底。	φ1～2mm白色粒子中量	良	外面	側面:灰黄(2.5Y6/2) 底面:暗灰黄(2.5Y4/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
						内面	器面剥落。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
17-19-26 14-SX02-26	SX02	土師器 壺形	底部	– 3.5 [5.6]	78.5	外面	丁寧なナデ(縦位/横位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm程度褐色粒子極微量	良	外面	黒褐(7.5YR3/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
						内面	器面摩滅が顕著。			内面	黒褐(10YR3/2)	
17-19-27 14-SX02-27	SX02	土師器 壺形	底部	– 3.8 8.0	127.0	外面	ナデ(縦位/横位)。	φ1mm以下白色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR5/3)	・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい橙(7.5YR5/3)	
16-19-28 14-SX02-28	SX02	土師器 小型壺形	口縁部 ～底部	[5.0] 9.1 3.0	203.8	外面	口縁部～頸部ナデ(横位)、胴部ナデ(縦位/斜位)、胴部外面から焼成前穿孔。底部上げ底。	φ1～2mm褐色粒子中量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期か？
						内面	–			内面	暗灰黄(2.5Y5/2)	
17-19-29 14-SX02-29	SX02	土師器 広口壺形	口縁部 ～頸部	[27.3] 5.2 –	77.5	外面	口縁部ハケ目(縦位)後粘土貼付けにより複合口縁作出、頸部ハケ目(縦位)後ナデ(横位)。	φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい赤橙(5YR5/3)	・複合口縁 ・外面全面、口縁部内面赤彩 ・古墳前期
						内面	ハケ目(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
16-20-30 14-SX02-30	SX02	土師器 台付壺形	胴部～ 底部	37.8 [13.7]	953.4	外面	胴上部ハケ目(横位)、一部ヘラナデ後指ナデ。	φ1mm程度赤褐色粒子極微量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm程度砂粒極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/3)	・外面全面赤彩 ・銀雲母極 ・古墳前期
						内面	胴部ナデ(横位)、胴上部～胴大径部ヘラ目。			内面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
16-20-31 14-SX02-31	SX02	土師器 台付壺形	口縁部 ～胴部	20.0 21.2 –	1298.9	外面	口縁部丁寧なナデ(横位)、胴部ハケ目(横位/斜位/縦位)、胴下部に横やから指ナデ。	φ1～2mm褐色粒子中量 φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・内外面赤彩 ・土圧による補痕が顕著 ・新生黒斑～古墳前期
						内面	口縁部ヘラ目(横位)、胴部丁寧なナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR7/4)	
16-20-32 14-SX02-32	SX02	土師器 台付壺形	口縁部 ～胴台部 上部	21.3 20.1 –	985.9	外面	口唇部ナデ(横位)後幅3mm程度丸棒状工具端部押圧による4ヶ所、頸部以下ハケ目(縦位/斜位)。	φ1～2mm褐色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	黒褐(10YR3/2)	・外面回化物付着 ・土圧による補痕が顕著 ・新生黒斑～古墳前期
						内面	口縁部～頸部ハケ目(横位)、胴部丁寧なナデ(横位/斜位)。			内面	にぶい橙(7.5YR5/4)	
16-21-33 15-SX02-33	SX02	土師器 台付壺形	口縁部 ～胴台 上部	17.5 24.9 –	1851.0	外面	口唇部幅5mm程度ヘラ状工具押引きによるキザミ(左方向)。口縁部～頸部ハケ目(縦位)、胴上部ハケ目(横位)後ナデ(斜位)、胴下部ヘラナデ(斜位/横位)後指ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm程度砂粒極微量 φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/4)	・外面全面赤彩 ・内面に縦部赤彩 ・古墳前期
						内面	口縁部ハケ目(横位)、胴部ナデ(斜位/横位/縦位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	

第６表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（３）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
16-21-34	SX02	土師器 壺形	□縁部～ 底部	－ 16.5 9.0	803.1	外面	側面：ヘラナデ後下寄り指ナデ(胴部-横位/胴上部-縦位/最大径部-横位/胴下部-縦位/底周周辺-横位)。 底面：木葉痕。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	赤(10RS/6)	・内外面赤彩 ・古墳前期
15-SX02-34						内面	胴部～胴上部ヘラナデ(横位・ハケ目)			内面	にぶい黄橙(10YR5/3)	
17-21-35	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴部	19.2 13.9 －	262.5	外面	□縁部ナデ(横位)後、内外面を観察と入念に指でつまむことで指頭圧痕を施す。胴部ヘラ目(横位)後丸底ナデ(横位)。	◎1～2mm褐色粒子少量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
15-SX02-35						内面	ハケ目(横位/斜位)。			内面	にぶい黄橙(10YR5/3)	
16-21-36	SX02	土師器 壺形	□縁部～ 胴下部	14.9 13.5 －	733.6	外面	□縁部ナデ(横位)後、内外面を観察と入念に指でつまむことで指頭圧痕を施す。胴部ヘラ目(斜位)後最大径部ナデ(横位)。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
15-SX02-36						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
17-21-37	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	15.0 12.1 －	167.3	外面	□縁部～胴部ハケ目(横位)後ナデ(横位)。胴部ハケ目(横位)。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1mm以下赤褐色粒子極微量 ◎1～2mm褐色粒子少量 ◎1～2mm砂粒微量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・外面炭化物付着 ・胴部内面摩滅 ・古墳前期
15-SX02-37						内面	□縁部ハケ目(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
17-21-38	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	16.0 13.2 －	327.5	外面	□縁部ナデ(横位後横位)輪積み痕を意図的に残すも、胴部ハケ目(斜位)、胴下部ナデ(斜位後横位)。	◎1mm以下白色粒子微量 1mm程度明褐色粒子極微量	良	外面	橙(5YR6/6)	・古墳前期
15-SX02-38						内面	□縁部ハケ目(横位)、胴部ナデ(横位)。			内面	にぶい橙(7.5YR6/4)	
17-22-39	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴部	[16.5] 14.7 －	159.0	外面	□縁部ナデ(横位)、胴上部ハケ目(横位/斜位)。		良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・古墳前期
16-SX02-39						内面	□縁部ハケ目(横位)、胴部ナデ(横位)、胴上部～ラナデ(縦位/後丁寧な指ナデ)(横位)、胴下部ハケ目(横位)。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1～2mm褐色粒子少量		内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
17-22-40	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	[19.9] 7.8 －	77.3	外面	□頸部へラ状工具端部押圧によるキザミ有。□縁部ナデ(横位)、胴部～胴上部ハケ目(縦位)。	◎1mm以下白色粒子少量 1mm程度金雲母片微量 1mm程度赤褐色粒子極微量	良	外面	暗灰黄(2.5Y5/2)	・古墳前期
16-SX02-40						内面	ハケ目(横位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	
17-22-41	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～底部	[8.3] 9.1 4.4	160.5	外面	丁寧なナデ(横位/斜位/縦位)。 ナデ(横位/縦位)、輪積み痕あり。	◎1mm以下白色粒子少量 1mm程度褐色粒子微量 1mm程度赤褐色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・外面赤彩 ・内面赤彩か? ・古墳前期
16-SX02-41						内面				内面	にぶい黄橙(10YR5/4)	
22-42	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	[13.0] 7.1 －	57.1	外面	□縁部中腹をやや肥厚させる。□縁部ハケ目(横位)、胴部ナデ(横位)、胴上部ハケ目(斜位)。	◎1～2mm白色粒子少量	良	外面	灰褐(7.5YR4/2)	・古墳前期
16-SX02-42						内面	ハケ目(横位/斜位)。			内面	にぶい黄橙(10YR5/3)	
22-43	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	[17.2] 3.2 －	40.7	外面	粘土紐貼付により凸帯を作出後、凸帯部以下ハケ目(縦位)。	◎1mm以下黒色粒子微量 ◎1～2mm小石極微量 ◎1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/3)	・外来系土器 ・古墳前期
16-SX02-43						内面	外面凸帯部の内側を横位の指ナデによりやや中凹させる。			内面	にぶい黄橙(10YR8/3)	
22-44	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	－	66.9	外面	□縁部粘土の迫り出しにより凸帯を作出。凸帯部～外状工具の施設押引きにより、斜めのキザミを施す。□縁部指ナデ(横位)。胴部ハケ目(縦位)後指ナデ、胴上部ハケ目(横位)。	◎1mm以下白色粒子極微量 ◎1mm以下黒色粒子微量 ◎1mm程度褐色粒子極微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・外来系土器 ・古墳前期
16-SX02-44						内面	□頸部直下を指ナデにより凹状に作出。ナデ(横位)。			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
17-22-45	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	－	44.1	外面	□縁部ハケ目(横位)、頸部以下ハケ目(縦位)。	◎1mm以下白色粒子中量 ◎1～2mm褐色粒子極微量	良	外面	黒褐(2.5Y3/1)	・外面赤彩か? ・古墳前期
16-SX02-45						内面	□縁部ハケ目(横位)。□縁下端、調整痕を意図に強く当て横位に引くことで、口縁上部に1mm角度の段を作出する。頸部以下ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙色(10YR5/3)	
17-22-46	SX02	土師器 壺形	□縁部 ～胴上 部	－	75.0	外面	□縁部ハケ目(横位)、頸部以下ハケ目(横位/斜位)。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・古墳前期
16-SX02-46						内面	□縁部ハケ目(横位)。頸部以下ナデ(横位)。			内面	にぶい橙(7.5YR6/4)	

第７表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（４）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出基(cm) 口径 推存低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
17-22-47	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	－	29.7	外面	口縁部ナデ（横位）。頸部ハケ目（縦位）。頸部以下ハケ目（横位）。	◎1mm以下白色粒子少量 ◎1mm以下黒色粒子極微量	良	外面	浅黄(2.5Y7/3)	・外面赤彩 ・古墳前期
16-SX02-47						内面	ハケ目（横位）後ナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR7/3)	
22-48	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	－	30.9	外面	器面摩滅が顕著。	◎1～2mm砂粒微量 ◎1mm以下白色粒子極微量	良	外面	橙(5YR6/6)	・胎土赤味が強い ・古墳前期
16-SX02-48						内面	器面摩滅が顕著。			内面	明赤褐(5YR5/6)	
22-49	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	－	20.1	外面	丁寧なナデ。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1～2mm褐色粒子微量 ◎1～2mm小石極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・古墳前期
16-SX02-49						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
22-50	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	－	16.7	外面	口縁部～頸部ナデ（横位）。胴上部ハケ目（横位）。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	黒褐(2.5Y3/2)	・古墳前期
16-SX02-50						内面	ハケ目（横位）後ナデ（横位）。			内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
17-23-51	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	－	10.9	外面	口縁部ナデ（横位）。頸部以下ナデ（縦位）。	◎1～2mm褐色粒子微量 ◎1mm以下白色粒子少量 ◎1～2mm小石極微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/3)	・古墳前期
16-SX02-51						内面	口縁部ハケ目（横位）。頸部以下ナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
22-52	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	－	23.2	外面	ナデ（横位）。指頭圧痕顕著。	◎1mm以下白色粒子中量 ◎1～2mm小石極微量	良	外面	灰黄(2.5Y6/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
16-SX02-52						内面	ナデ（横位）。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
22-53	SX02	土師器 壺形	口縁部	－	21.1	外面	口縁部ハケ目（横位）。頸部以下ハケ目（縦位）。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1～2mm赤褐色粒子少量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・古墳前期
16-SX02-53						内面	ハケ目（斜位/横位）。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
16-22-54	SX02	土師器 壺形	口縁部	－	9.2	外面	丁寧なナデ（横位）。	◎1mm以下白色粒子少量	良	外面	にぶい赤褐(5YR5/4)	・13と共焼成 ・外面赤彩 ・古墳前期
16-SX02-54						内面	丁寧なナデ（横位）。			内面	灰黄褐(10YR4/2)	
22-55	SX02	土師器 壺形	口縁部	－	12.0	外面	ナデ（横位）。外面に輪積み痕を残す。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・古墳前期
16-SX02-55						内面	ハケ目（横位）。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
23-56	SX02	土師器 台付壺形	胴部	－	91.7	外面	ハケ目（斜位/縦位）。	◎1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・古墳前期
16-SX02-56						内面	ハケ目（横位）後ナデ（横位）。			内面	黒褐(2.5Y3/1)	
23-57	SX02	土師器 壺形	胴部	－	92.2	外面	ナデか？	◎1～3mm褐色粒子中量 ◎1mm以下白色粒子少量	良	外面	灰オリーブ(5Y5/2)	・外面赤彩 ・外面黒化物付着 ・古墳前期
16-SX02-57						内面	ナデ（横位）。			内面	オリーブ黒(5Y3/2)	
17-23-58	SX02	土師器 壺形	胴部	－	30.1	外面	ハケ目（横位）。	◎1mm以下白色粒子中量 ◎1～2mm粗度褐色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・外面黒斑 ・古墳前期
16-SX02-58						内面	ナデ。輪積み痕あり。			内面	にぶい黄橙(10YR7/4)	
17-23-59	SX02	土師器 壺形	胴部	－	11.7	外面	輪積み時に粘土紐接合面に約1mmの段を残す。ハケ目（横位/斜位）。	◎1mm以下赤褐色粒子微量 ◎1mm以下黒色粒子極微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	・内面種子圧痕か？ ・弥生後期～古墳前期
16-SX02-59						内面	ナデ。長径10mm、短径5mm種子圧痕か？			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
23-60	SX02	土師器 壺形	胴部	－	44.8	外面	ハケ目（横位/斜位）。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1mm以下石英粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
17-SX02-60						内面	丁寧なナデ。輪積み痕あり。			内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
23-61	SX02	土師器 壺形	胴部	－	45.5	外面	ハケ目（縦位）。	◎1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
17-SX02-61						内面	ハケ目（横位）後ナデ。			内面	灰黄褐(10YR5/2)	
23-62	SX02	土師器 壺形	胴部	－	32.7	外面	ハケ目（横位）。	◎1mm以下白色粒子少量 ◎1mm粗度褐色粒子微量	良	外面	黒褐(2.5Y3/2)	・古墳前期
17-SX02-62						内面	ハケ目（斜位）後ナデ（斜位/縦位）。			内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
23-63	SX02	土師器 壺形	胴下部	－	57.5	外面	ハケ目（縦位）。	◎1mm以下白色粒子微量 ◎1～2mm赤褐色粒子極微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・外面黒化物付着 ・外面下部摩滅 ・古墳前期
17-SX02-63						内面	ナデ（横位/斜位）。			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
23-64	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 2.4 －	45.7	外面	ハケ目（縦位）後ナデ（横位）。	◎1mm以下白色粒子中量 ◎2～3mm小石極微量	良	外面	灰褐(7.5YR4/2)	・古墳前期
17-SX02-64						内面	ナデ。器面下面を下方に降起させる。			内面	黒褐(2.5Y3/1)	
17-23-65	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 2.2 －	22.3	外面	ナデか？	◎1～3mm赤褐色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・内外面摩滅 ・古墳前期
17-SX02-65						内面	ナデか？			内面	にぶい黄橙(10YR7/3)	

第８表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（５）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 器台(低)高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
17-23-66	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 3.0	25.5	外面	ハケ目(縦位/斜位)。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤褐色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
17-SX02-66				－		内面	ナデか？			内面	橙(7.5YR6/6)	
23-67	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 3.4	23.1	外面	ハケ目(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
17-SX02-67				－		内面	ナデ(縦位)。			内面	オリーブ黒(5Y3/1)	
23-68	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 3.3	34.7	外面	上部ナデ(横位)。下部ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・外面赤彩(上部縦方赤色塗料残存) ・古墳前期
17-SX02-68				－		内面	ナデ(横位)。			内面	黄灰(2.5Y6/1)	
23-69	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 4.2	28.0	外面	丁寧なナデ(横位/縦位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい赤褐(5YR4/4)	・古墳前期
17-SX02-69				－		内面	ナデか？			内面	明赤褐(2.5YR5/6)	
17-23-70	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ [5.5]	51.7	外面	上部ハケ目(縦位)。下部ハケ目(縦位/斜位)後幅1.3cm断面竹管状工具による平行線を横位に施文。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm程度褐色粒子微量	良	外面	灰黄(2.5Y7/2)	・外面赤彩 ・古墳前期
17-SX02-70				－		内面	ハケ目(横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
23-71	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 3.0	72.7	外面	ナデ(縦位/横位)。	φ1～2mm褐色粒子中量 φ1mm程度赤褐色粒子微量 φ1mm以下雲母片極微量	良	外面	黒褐(2.5Y3/1)	・古墳前期
17-SX02-71				－		内面	ナデ。			内面	灰黄褐(10YR5/2)	
17-23-72	SX02	土師器 壺形	底部	－ 2.4	55.3	外面	上部ハケ目(縦位)後、底部側面ナデ(横位)。底部指頭圧痕顕著。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1mm以下石英粒子極微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・古墳前期
17-SX02-72				4.7		内面	ケズリ。			内面	暗灰黄(2.5Y4/2)	
17-23-73	SX02	土師器 台付壺形	底部～ 脚台部	－ 10.9	232.3	外面	ハケ目(縦位/斜位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	橙(7.5YR6/6)	・古墳前期
17-SX02-73				[11.6]		内面	ハケ目(縦位)後ナデ(横位/斜位)。指頭圧痕顕著。			脚台内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
23-74	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 7.4	80.4	外面	ナデか？	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	赤褐(2.5YR4/6)	・脚上赤味が強い ・内外全面滅 ・古墳前期
17-SX02-74				[8.2]		内面	ナデか？			内面	赤褐(2.5YR4/6)	
17-23-75	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 12.3	242.4	外面	ハケ目(縦位後斜位)後ナデ(横位)。	φ1～2mm小石微量 φ1mm程度黒色粒子微量 φ1mm以下石英粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・古墳前期
17-SX02-75				11.4		内面	ナデ(斜位)。			内面	にぶい褐(2.5Y6/3)	
17-23-76	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 6.9	71.5	外面	ハケ目(縦位)、粗部ナデ(横位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ2～3mm小石微量	良	外面	にぶい褐(7.5YR5/3)	・古墳前期
17-SX02-76				7.0		内面	ナデ(斜位)。			内面	にぶい赤褐(2.5YR4/4)	
17-24-77	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 6.2	97.6	外面	ハケ目(斜位)後ナデ(斜位)。	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・古墳前期
17-SX02-77				9.2		内面	ナデ(斜位)。粗部に1段の輪積痕を意図的に残す。			内面	明赤褐(2.5YR5/6)	
16-24-78	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 5.0	121.7	外面	脚台上部ナデ(横位)。脚台下部ナデ(縦位)。	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm程度黒色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子微量 φ1mm程度赤褐色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
17-SX02-78				8.0		内面	ナデ(横位)。			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
17-24-79	SX02	土師器 台付壺形	脚台部	－ 7.0	220.0	外面	ナデ(斜位/横位)。	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm以下黒色粒子極微量 φ1～2mm褐色粒子微量	良	外面	灰黄(2.5Y6/2)	・古墳前期
17-SX02-79				9.9		内面	ナデ(縦位/横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
24-80	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～底部	[11.6] －	63.9	外面	口縁部ナデ(横位)。胴部ナデ(縦位)。底部ナデ(横位)。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子極微量 φ2～3mm砂粒微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・内外面摩滅 ・古墳前期
17-SX02-80				4.6		内面	底部ナデ(斜位)。			内面	にぶい橙(7.5YR6/4)	
17-24-81	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	－	60.0	外面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。	φ1～2mm暗赤褐色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR5/2)	・古墳前期
17-SX02-81						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	灰黄褐(10YR6/2)	
24-82-1・2 17-SX02-82-1・2	SX02	土師器 壺形	口縁部	－	19.8	外面	丁寧なナデ。	φ1mm程度暗赤褐色粒子微量	良	外面	明赤褐色(2.5YR5/6)	・脚上赤味が強い ・器厚が非常に薄い ・内外面赤彩か？ ・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
16-24-83 18-SX02-83	SX02	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	－	14.0	外面	丁寧なナデ後ミガキ。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面	にぶい橙(5YR6/4)	・30土器内か らの出土 ・内外面赤彩 ・古墳前期
						内面	丁寧なナデ後ミガキ。			内面	にぶい橙(7.5YR6/4)	

第９表　第２号周溝状遺構出土遺物観察表（６）

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出基(cm) 口径 器存低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
17-24-84 18-SX02-84	SX02	土師器 埦形	胴部～底部	－ 4.7 4.0	74.8	外面	ナデか？ ミガキ。	含有物なし。	良	外面 内面	浅黄(2.5Y7/3) にぶい黄橙(10YR6/4)	・内外面赤彩 ・外面黒斑 ・古墳前期
24-85 18-SX02-85	SX02	土師器 高坏形	口縁部～脚部	[13.8] 9.5 6.8	176.3	外面 内面	坏部ナデ（横位／縦位）。屈曲部にミガキ。脚部ナデ（縦位）。 坏口縁部ナデ（横位）。坏底部ナデ（縦位）。脚部ナデ（横位）。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm程度黒色粒子極微量 φ1mm程度砂粒極微量	良	外面 内面	明赤褐色(2.5YR5/6) 橙(7.5YR6/6)	・内外面赤彩 ・天地逆転で成形か？ ・古墳前期
16-24-86 18-SX02-86	SX02	土師器 坏形	口縁部～底部	14.8 5.2 －	208.8	外面 内面	横面：丁寧なナデ（横位／縦位）。 底面：上げ底。 丁寧なナデ（横位）。	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm程度褐色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面 内面	黄褐(2.5Y5/3) 暗灰黄(2.5Y4/2)	・内外面（底面含む）赤彩 ・古墳前期
24-87 18-SX02-87	SX02	土師器 高坏形	坏部	[14.8] － －	14.0	外面 内面	丁寧なナデ。 丁寧なナデ。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm程度赤褐色粒子微量	良	外面 内面	にぶい橙(7.5YR6/4) にぶい黄橙(10YR6/3)	・外面赤彩 ・古墳前期
24-88 18-SX02-88	SX02	土師器 坏形か？	脚部	－	10.2	外面	上部を外面からのケズリにより厚さ1mm程度に薄く作出する。下部は段を持たせ厚さ6mm程度に厚く作出する。上部はハケ目（横位）。下部肥厚部はミガキ（横位）。	φ1mm以下黒雲母片極微量	良	外面	灰黄(2.5Y6/2)	・外面下部赤彩 ・古墳前期か？
						内面	ナデ（横位）。			内面	浅黄(2.5Y7/3)	
24-89 18-SX02-89	SX02	土師器 高坏形	坏底部	－	14.7	外面 内面	器面摩滅が顕著 丁寧なナデ。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1～2mm褐色粒子微量	良	外面 内面	にぶい赤褐(2.5YR5/4) 赤褐(10R4/4)	・古墳前期
24-90 18-SX02-90	SX02	土師器 高坏形	坏底部	－	30.7	外面 内面	ナデ（斜位／横位）。 丁寧なナデ。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面 内面	にぶい黄橙(10YR5/3) 灰褐(7.5YR4/2)	・外内面赤彩 ・古墳前期
17-24-91 18-SX02-91	SX02	土師器 高坏形	脚部	－ 3.9 －	80.1	外面 内面	丁寧なナデ（縦位）。 ナデ（横位）。	φ1～2mm白色粒子多量	良	外面 内面	黄灰(2.5Y5/1) にぶい黄(2.5Y6/3)	・古墳前期
24-92 18-SX02-92	SX02	土師器 高坏形	脚部	－ 2.0 －	19.0	外面 内面	丁寧なナデ（縦位）。 ナデ（横位）。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm程度赤褐色粒子微量	良	外面 内面	にぶい黄(2.5Y6/3) 灰黄(2.5Y6/2)	・古墳前期
16-24-93 18-SX02-93	SX02	土師器 高坏形	坏底部～脚部	－ 9.8 11.4	295.3	外面	非変に丁寧なナデ（横位／縦位／斜位）。脚部に外部からの焼成前穿孔による透かし穴4つ×3セットで前面・背面に配置。	φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下黒雲母粒子微量 φ1mm以下石英粒子極微量	良	外面	にぶい橙(2.5YR6/3)	・外面赤彩 ・外面黒斑あり ・古墳前期
						内面	ハケ目（斜位）後ナデ（横位）。			内面	にぶい橙(5YR6/3)	
17-24-94 18-SX02-94	SX02	土師器 高坏形	脚部	－ 4.2 11.0	104.2	外面 内面	丁寧なナデ（縦位）。外部からの焼成前穿孔による透かし穴3つ（内2つは三角形、1つは円形）をほぼ均等に配置。 丁寧なナデ（横位）。	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm程度褐色粒子微量	良	外面 内面	暗赤褐(5YR3/2) 赤褐(10YR4/4)	・内外面赤彩 ・古墳前期
17-24-95 18-SX02-95	SX02	土師器 器台形	脚部	－ 3.9 －	41.3	外面 内面	丁寧なナデ。 ハケ目後ナデ。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子少量	良	外面 内面	にぶい橙(5YR6/4) にぶい橙(7.5YR6/4)	・粘土赤味が強い ・古墳前期
24-96 18-SX02-96	SX02	土師器 ミニチュア 広口壺形	口縁部～脚上部	[10.0] 3.2 －	18.8	外面 内面	ナデ（横位）。 ナデ（横位）。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子極微量	良	外面 内面	にぶい橙(7.5YR5/4) にぶい橙(7.5YR5/4)	・古墳前期
24-97 18-SX02-97	SX02	土師器 ミニチュア 壺形	底部	－ 2.4 [3.4]	14.3	外面 内面	ナデ。 ナデ。	φ1mm以下赤褐色粒子微量 φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面 内面	黄灰(2.5Y4/1) にぶい黄橙(10YR6/3)	・古墳前期
24-98 18-SX02-98	SX02	土師器 転用砥石	－	－	27.4	土器底部破片の二次利用。縁辺破断面を擦り面とする。		φ1～2mm褐色粒子中量 φ1mm以下白色粒子微量	良	上面 内面	赤褐(2.5YR4/6) 褐(7.5YR4/4)	・古墳前期

第３号周溝状遺構－ SX03

遺構（第 25 図　図版 10 － 1）

位置：C － 2 グリッド。

重複関係：SD01 に切られる。調査区外で SX01 と重複すると考えられるが、新旧関係は不明。

平面形・規模：周溝端部のみ検出した。今回の検出範囲は、「コ」字状の周溝状遺構の南辺の一部であると考えられる。検出部の南北長は約 2.11m。

主軸方位：N － 87° － E。

周溝：上端最大幅 0.60m、下端幅 0.37 ～ 0.45m、確認面からの深さ 0.10 ～ 0.30m。断面形状は逆台形を呈するものと思われる。南壁は急傾斜で立ち上がる。底面はほぼ水平であるが、端部で 15cm 程度の段を 1 段もち、階段状に立ち上がる。

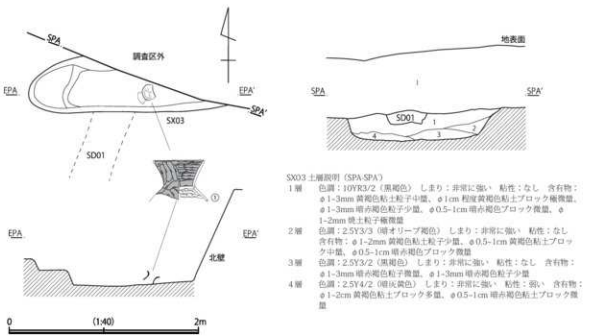
覆土：SPA － SPA' で覆土を観察した。底面直上には黒褐色土層（第 3 層）が堆積するが、他の周溝状遺構で見られた底面直上層と比較すると、やや色調は明るく光沢も弱い。最下層の第 4 層は地山の黄褐色粘土ブロックが多く混入していることから、周溝内側からの地山（あるいは盛土）崩落によって形成された層である可能性がある。第 3 層から第 1 層は、黄褐色粘土ブロックや焼土等の混入の様相から、人為的な埋め戻しによって形成されたものと考えられる。

遺物（第 25・26 図　第 10 表　図版 10 － 2・18）

出土状況：本遺構からは全部で 8 点、626.2g の遺物が出土した。すべてが古墳時代前期初頭の土師器である。これらのうち図示したものは 4 点である。1 は壺形土器口縁部～頸部の大型破片である。遺構底面のほぼ直上から、逆位で出土した。2 は S 字口縁甕形土器の口縁部破片であり、外面凸帯部に円形のキザミ列を施す。

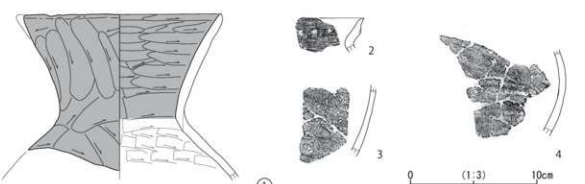
時期

出土遺物から古墳時代前期初頭。



SX03 土層説明（SPA-SPA'）
1層　色調：10YR3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量。φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量。φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック微量。φ1-2mm 焼土粒子極微量
2層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量。φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック中量。φ0.5-1cm 暗赤褐色ブロック微量
3層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量。φ1-3mm 暗赤褐色粒子少量
4層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2cm 黄褐色粘土ブロック多量。φ0.5-1cm 暗赤褐色粘土ブロック微量

第 25 図　第３号周溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SX03）



第 26 図　第３号周溝状遺構出土遺物実測図（SX03）

第 10 表　第３号周溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出量(cm) 口径 推存低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
25-26-1	SX03	土師器 壺形	口縁部 ～胴上部	[15.9] 13.0 －	541.4	外面	丁寧なナデ(縦位/斜位/横位)。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1～2mm赤褐色粒子微量	良	外面	赤赤褐部： にぶい黄橙(10YR7/4) 赤褐部：明赤褐(2.5YR5/6)	・外面・口縁部内面赤彩 ・古墳前期
18-SX03-1						内面	口縁部～ケ目(横位)後ナデ(横位)。屈曲部～ケ目(横位)。胴上部ケズリ(横位)。			内面	赤赤褐部： にぶい黄橙(10YR7/4) 赤褐部：明赤褐(2.5YR5/6)	
26-2	SX03	土師器 壺形	口縁部 ～胴部	－	9.5	外面	口縁部幅1.0cm程度粘土紐貼付けにより凸帯を作出後、凸帯上に棒状工具により円形のキザミを1.2cm間隔で施文。胴部以下ハケ目(横位)。	φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	灰黄(2.5Y6/2)	・5字口縁 ・外来系土器 ・古墳前期
18-SX03-2						内面	ナデ(横位)。			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
26-3	SX03	土師器 壺形	胴部	－	17.7	外面	丁寧なナデ。	φ1～2mm赤褐色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/4)	・4計同一個体か？ ・外面赤彩 ・古墳前期
18-SX03-3						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	
26-4	SX03	土師器 壺形	胴部	－	31.2	外面	丁寧なナデ。	φ1～2mm赤褐色粒子少量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・3計同一個体か？ ・外面赤彩 ・古墳前期
18-SX03-4						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	にぶい黄(2.5Y6/3)	

第４号周溝状遺構－ SX04

遺構（第 27・28 図　図版 11 － 1 ）

位置：A・B － 2 ・ 3 グリッド。

重複関係：SX02 に切られる。

平面形・規模：北東辺の一部と南東辺の一部を検出した。北部で検出した屈曲部は、周溝状遺構の北東角であると考えられる。検出部の北東－南西長は約 6.98m。

主軸方位：N － 31° － E。

周溝：上端幅 0.60m 程度、下端幅 0.34 ～ 0.56m、確認面からの深さ 0.50 ～ 0.70m。断面形状は逆台形を呈する。壁の傾斜角は 70° ～ 80° を測り、急傾斜で立ち上がる。底面はやや起伏が見られ、SX02 との重複部が最も深くなる。また、北部の屈曲部では比高差 0.15m の段を有し、段北側の底面は 1 段高くなる。

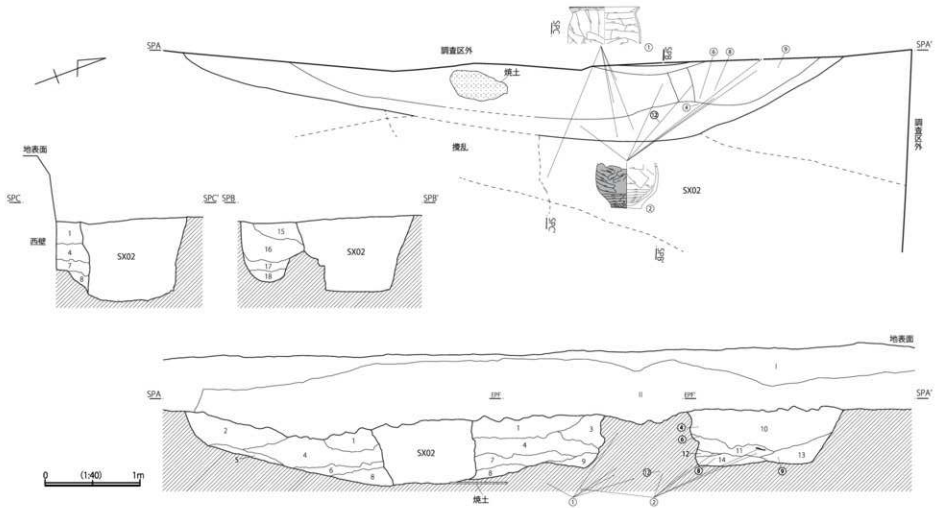
覆土：SPA － SPA'、SPB － SPB'、SPC － SPC' の 3 箇所で覆土を観察した。底面直上にはにぶい光沢をもつ黒色土層（ 8 層・13 層・18 層）が堆積する。また、SX04 検出範囲の中間部の底面直上では、8 層の黒色土に混ざるようにして焼土の集中分布域を確認した。焼土の集中分布域では被熱による土の硬化等は見られなかったため、この地点において長時間に渡って火を焚いた痕跡とは考え難く、火を焚いた痕跡であったとしても、それは一時的なものであった可能性がある。また、他から焼土を搬入し、この地点に撒いた可能性も考えられる。周溝内側からの地山（あるいは盛土）崩落によって形成されたと考えられる層は 14 層である。中層以上にも焼土粒子や炭化物粒子の混入が見られる層があるが、概して面的に水平堆積をしているため、自然堆積によって形成された可能性がある。

遺物（第 27・29 図　第 11 表　図版 18・19）

出土状況：本遺構からは全部で 53 点、2,193.9g の遺物が出土した。弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器 51 点（1,870.3g）、礫 1 点（6.4g）、焼成粘土塊 1 点（317.2g）である。これらのうち図示したものは 11 点であり、焼成粘土塊 1 点（12）は写真のみ掲載した。1 の甕形土器は SX02 出土破片と接合したものである。SX02 出土破片は本来は SX04 に帰属し、SX04 が破壊され SX02 が構築された際に掘り返され、SX02 の埋没過程で混入したものと考えられる。2 の壺形土器は水平方向では 2.0m、垂直方向では 0.60m 程度の範囲で出土破片が接合したものである。重複する SX02 の遺物出土状況と比較すると、遺物の出土点数は相対的に少ない。また、SX02 では意図的な土器の埋置行為が想起される出土状況が見られたが、SX02 では土器片を散布したような印象を受ける。焼成粘土塊（12）は遺構の底面付近から出土したが、焼成粘土塊の出土地点周辺では焼土の集中分布は確認できていない。なお、1.5m 程南方で検出した焼土集中分布域と焼成粘土塊の関係については不明である。

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。


SPA
SPA'
調査区外
焼土
撹乱
SX02
地表面
SPC
SPC'
SPB
SPB'
西壁
SX02
SX02
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD14
SD15
SD16
SD17
SD18
SD19
SD20
SD21
SD22
SD23
SD24
SD25
SD26
SD27
SD28
SD29
SD30
SD31
SD32
SD33
SD34
SD35
SD36
SD37
SD38
SD39
SD40

SX04 土層説明（SPA·SPA' ・SPB·SPB' ・SPC·SPC'）

1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子多量、φ1~2mm 焼土粒子極微量

2 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子極微量、φ3~10mm 炭化物微量

3 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子中量、φ1~3mm 焼土粒子極微量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ5mm 程度炭化物粒子極微量

4 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ1~5mm 炭化物粒子極微量

5 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子微量

6 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1~3mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.1 mm 程度白色粒子少量

7 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5~1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ1~5mm 炭化物粒子微量

8 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1~3mm 暗赤褐色粒子少量、φ0.1mm 程度白色粒子極微量、φ1~3mm 炭化物粒子極微量

9 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1~2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ1~3mm 暗赤褐色粒子中量、φ1~2mm 炭化物粒子極微量　その他：やや砂質

10 層　色調：10Y3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1~5cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子中量、φ0.1mm 程度白色粒子微量、φ1~3mm 炭化物粒子極微量

11 層　色調：2.5Y3/1（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子微量、φ1~2mm 炭化物粒子少量　その他：やや砂質

12 層　色調：2.5Y5/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子多量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子微量、φ1~3mm 炭化物粒子極微量

13 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1~3cm 黄褐色粘土ブロック少量、φ1~5mm 暗赤褐色粒子微量

14 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ2~5cm 黄褐色粘土ブロック多量

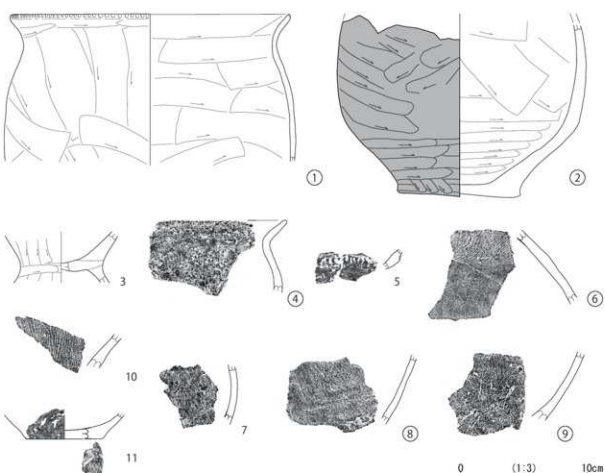
15 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5~2cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ1~3mm 暗赤褐色粒子多量

16 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1~4mm 暗赤褐色粒子中量、φ1~2mm 焼土粒子微量、φ0.5~1cm 焼土ブロック少量

17 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1~4mm 暗赤褐色粒子多量、φ1~3mm 炭化物粒子微量

18 層　色調：2.5Y2/1（黒色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1~2mm 暗赤褐色粒子極微量、φ1~2mm 焼土粒子極微量、φ1~3mm 炭化物粒子極微量

第 28 図　第 4 号周溝状遺構出土遺物実測図・遺物出土状況図（SX04）（2）



第 29 図　第 4 号周溝状遺構出土遺物実測図（SX04）

第 11 表　第 4 号周溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出量(cm) 口径 器台(低)高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
27-29-1	SX04	土師器 台付壺形	口縁部 ～胴上部	[22.4] 11.8 –	405.1	外面	口唇部幅2.5mm程度角棒状工具端部側面押圧によるキザミ残。口縁部ナデ(横位)。胴部ハケ目(縦位/横位)。	φ1mm以下白色粒子極微量 φ1mm程度褐色粒子微量	良	外面	黒褐(2.5Y3/1)	・外面炭化物付着 ・弥生後期～古墳前期
18-SX04-1						内面	ハケ目(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR6/4)	
27-29-2	SX04	土師器 壺形	胴部～底部	– 13.6 9.8	1053.5	外面	胴上部ハケ目後ミガキ(斜位)。胴下部ハケ目後丁寧なナデ(縦位/横位)。底面上げ底。	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～3mm褐色粒子中量	良	外面	黒褐(2.5Y3/1)	・内面剥落 ・外面赤彩か? ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-2						内面	胴上部ナデ(斜位/横位)。胴下部丁寧なナデ(横位)。			内面	にぶい赤褐(5YR4/4)	
29-3	SX04	土師器 台付壺形	壺底部 ～脚台部	– 4.1 –	36.1	外面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。	φ1～2mm赤褐色粒子中量 φ2～3mm小石微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	・弥生後期～古墳前期
19-SX04-3						内面	ナデか?			内面	灰黄(2.5Y6/2)	
27-29-4	SX04	土師器 広口壺形	口縁部 ～胴上部	–	36.2	外面	ナデ(横位)。	φ1～3mm小石中量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/4)	・外面剥落 ・外面赤彩か? ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-4						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	暗灰黄(2.5Y5/2)	
29-5	SX04	土師器 壺形	口縁部	–	7.6	外面	上下からの追り出しにより凸帯を作出し、幅6mm程度のヘラ状工具端部押引きによりキザミを施す。	φ1mm程度褐色粒子微量	良	外面	浅黄(2.5Y7/3)	・外面赤彩か? ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-5						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	浅黄(2.5Y7/4)	
27-29-6	SX04	土師器 壺形	胴上部	–	43.1	外面	単軸絡条体Ⅰb横走文斜位施文→5字状結節文横位施文→単位工具端部押引きによりキザミを施す。	φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	褐灰(7.5YR4/1)	・外面赤彩 ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-6						内面	丁寧なナデ(横位)。			内面	暗灰黄(2.5Y5/2)	
29-7	SX04	土師器 壺形	胴下部	–	13.4	外面	丁寧なナデ。	φ1～3mm小石多量	良	外面	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	・外面赤彩 ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-7						内面	器面摩滅が顕著。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
27-29-8	SX04	土師器 壺形	胴部	–	32.3	外面	ハケ目(斜位)。	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・2と同一個体か?
19-SX04-8						内面	ハケ目(横位)後ナデ(横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	・弥生後期～古墳前期
27-29-9	SX04	土師器 壺形	胴部	–	36.1	外面	ナデか?	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～4mm小石極微量	良	外面	灰黄褐(10YR4/2)	・1と同一個体か?
19-SX04-9						内面	ナデ(横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	・弥生後期～古墳前期
29-10	SX04	土師器 台付壺形	壺底部 ～脚台部	–	13.7	外面	ハケ目(縦位)。	φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/4)	・外面赤彩 ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-10						内面	ハケ目(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR7/4)	
29-11	SX04	土師器 壺形	底部	–	16.8	外面	丁寧なナデ(横位)。底面木葉痕か?	φ1～3mm小石多量	良	外面	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	・2と同一個体か? ・外面赤彩 ・弥生後期～古墳前期
19-SX04-11						内面	ナデ(横位)。			内面	黄灰(2.5Y4/1)	
27	SX04	焼成粘土塊	–	–	317.2	–		–	良	にぶい黄橙(10YR6/4)		・写真図版のみ掲載
19-SX04-12												

第２節　その他の遺構と遺物

１　溝状遺構

第１号溝状遺構－ SD01

遺構（第 30 図　図版３－２・４－１）

位置：B・C －２～４グリッド。

重複関係：P24 に切られ、P22・SX01・SX03 を切る。

平面形・規模：北側及び南側が調査区外へと続くため推測を含むが、全体の形状は直線状を呈すると考えられる。北東－南西長は 7.44m を測る。遺構確認面からの深さは 12 ～ 20cm、上端幅 37 ～ 65cm、下端幅 28 ～ 46cm を測る。

主軸方位：N － 15° － E。

覆土：SPA － SPA'、SPB － SPB'、SPC － SPC'、SPD － SPD' の 4 箇所で覆土を観察した。SPB － SPB' では黒褐色土層の堆積を確認したが、周溝状遺構として報告した SX01 ～ SX04 の底面直上で観察した黒色土層とは色調・含有物・光沢等の様相が大きく異なる。一方、市内でしばしば確認される中世期の溝状遺構の覆土の様相と類似している。各層の含有物から、自然堆積によるものと考えられる。

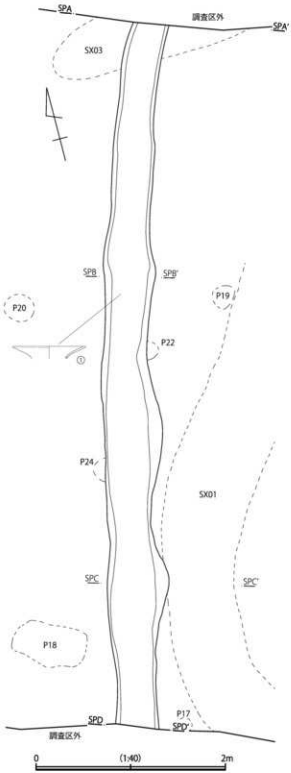
付属遺構：本遺構の検出範囲の南西側で検出した P18 からは板碑片が検出されている。P18 は出土遺物や平面形状においても中世以降の所産であると考えられるため、本遺構と関連する遺構である可能性がある。

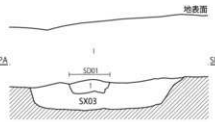
遺物（第 30・31 図　第 12 表　図版 19）

出土状況：本遺構からの出土遺物は非常に少なく、全部で３点、45.2g の遺物が出土したのみである。全てが弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器片である。これらのうち図示したものは１点である。覆土から出土した土師器片３点も本遺構の時期比定の根拠とするのは難しく、周辺から流れ込んだものである可能性が高い。

時期

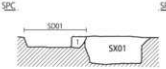
遺構形状や覆土の様相、P18 との関連性から中世以降に属するものと考えられる。



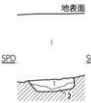


SD01 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR3/3（暗褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-5mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1-3mm 暗赤褐色粒子微量

SD01 土層説明（SPB-SPB'）
1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5-1cm 黄褐色粘土ブロック極微量
2 層　色調：10YR3/2（黒褐色）　しまり：強い　粘性：やや弱い　含有物：φ1-4mm 黄褐色粘土粒子少量、φ0.5-2cm 黄褐色粘土ブロック多量



SD01 土層説明（SPC-SPC'）
1 層　色調：10YR3/3（暗褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量



SD01 土層説明（SPD-SPD'）
1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量、φ1-2mm 暗褐色粒子極微量
2 層　色調：2.5Y4/3（オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1-2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5-2cm 黄褐色粘土ブロック中量、φ1-2mm 暗赤褐色粒子極微量

第 30 図　第 1 号溝状遺構実測図・遺物出土状況図（SD01）

第 31 図　第 1 号溝状遺構出土遺物実測図（SD01）

第 12 表　第 1 号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	出量(cm) 口径 残存部高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
30-31-1	SD01	土師器 鉢形	口縁部	[17.4] — —	36.0	外面	ハケ目（横位）後丁寧なナデ。	φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1mm以下黒色粒子少量 φ 1mm程度暗色粒子少量 φ 1mm程度小石微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR7/4)	・古墳前期
19-SD01-1						内面	ナデ（横位）。			内面	にぶい黄橙(10YR7/4)	

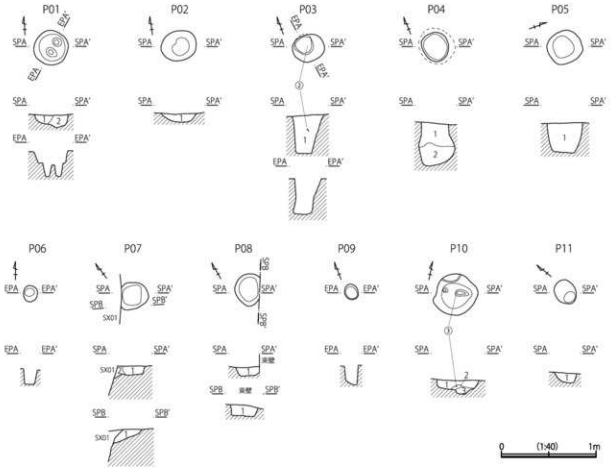
2　ピット

遺構（第 32・33 図　第 13 表）

本調査区からは全部で 24 基のピットを検出した。これらのうち、SI01 の柱穴が P16（第 8 図）、SI01 に付随する柱穴であるものが P08・P11・P12・P14・P15・P21、SX01 に伴う可能性があるものが P03・P19・P22、SD01 に伴う可能性があるものが P18 である。法量、帰属時期等を記載した一覧表は第 13 表に示した。

遺物（第 32・34 図　第 14 表　図版 19）

ピットから出土した遺物は少なく、土師器片が P03 から 4 点（33.5g）、P10 から 1 点（1.5g）、P19 から 2 点（56.9g）、板碑片が P18 から 1 点（92.1g）出土したのみである。いずれも意図的な設置等を想起させるような出土状況を呈するものはなかった。



P01 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~5cm 黄褐色粘土ブロック極微量
2 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：ふつう　粘性：やや強い　含有物：なし

P02 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ3~5mm 黄褐色粘土粒子少量

P03 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ1~3mm 暗赤褐色粒子微量、φ1~2mm 灰化物粒子微量

P04 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y2/1（黒色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ0.5~1cm 暗赤褐色ブロック微量
2 層　色調：10YR2/1（黒色）しまり：非常に強い　粘性：ふつう　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5~2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ0.5~1mm 暗赤褐色粒子少量

P05 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：10YR2/1（黒色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ0.5~1cm 黄褐色粘土ブロック極微量、φ0.5~1mm 暗赤褐色粒子少量

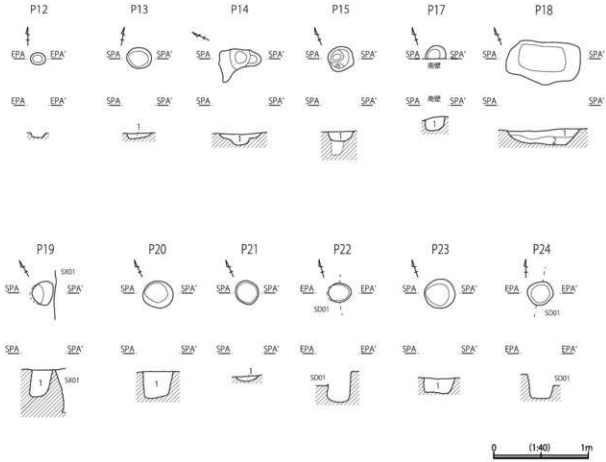
P07 土層説明（SPA·SPA'・SPB·SPB'）
1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 暗赤褐色粒子中量
2 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~3mm 暗赤褐色粒子少量

P08 土層説明（SPA·SPA'・SPB·SPB'）
1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子中量、φ1~2mm 暗赤褐色粒子極微量

P10 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/2（黒褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子少量、φ1~2mm 暗褐色粒子極微量
2 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ0.5~1mm 暗赤褐色粒子微量
3 層　色調：10YR3/3（暗褐色）しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子微量

P11 土層説明（SPA·SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ1~5mm 黄褐色粘土粒子微量、φ1~2mm 暗褐色粒子極微量

第 32 図　ピット実測図（P01 ～ P11）



P13 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR4/4（褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ 1~3mm 焼土粒子極微量

P14 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR3/3（暗褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~5mm 黄褐色粘土粒子極微量、φ 0.5~1cm 黄褐色粘土ブロック少量

P15 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~2mm 黄褐色粘土粒子微量、φ 0.5~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ 1~5mm 暗赤褐色粒子微量

P17 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR2/3（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ 1~2mm 暗赤褐色粒子極微量、φ 1~2mm 焼土粒子極微量

P18 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR3/3（暗褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~3mm 黄褐色粘土粒子微量、φ 0.5~1cm 黄褐色粘土ブロック少量、φ 1~3mm 暗赤褐色粒子微量
2 層　色調：10YR4/3（にぶい黄褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ 0.5~2cm 黄褐色粘土ブロック微量、φ 1~3mm 炭化物粒子微量

P19 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ 0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック極微量。

P20 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：10YR2/2（黒褐色）　しまり：非常に強い　粘性：弱い　含有物：φ 1~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ 0.5~1cm 程度黄褐色粘土ブロック微量、φ 1~5mm 暗赤褐色粒子少量

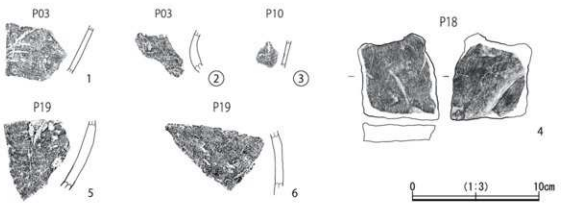
P21 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：2.5Y4/2（暗灰黄色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~3mm 黄褐色粘土粒子少量、φ 1~5mm 暗褐色粒子極微量

P23 土層説明（SPA-SPA'）
1 層　色調：2.5Y3/3（暗オリーブ褐色）　しまり：非常に強い　粘性：なし　含有物：φ 1~2mm 黄褐色粘土粒子少量、φ 0.5cm 程度黄褐色粘土ブロック微量

第 33 図　ピット実測図（P12 ～ P15・P17 ～ P24）

第 13 表　ピット計測表

遺構名	位置（グリッド）	平面形状	長軸長（m）	短軸長（m）	深さ（m）	時期	備考
P01	D － 3	円形	0.37	0.34	0.28		・2箇所の小ピット状の掘り込みあり
P02	D － 3	円形	0.38	0.32	0.08		
P03	D － 3	円形	0.34	0.28	0.40	弥生後～古墳前以降	・南東方向に向かう傾きを持つ ・SX01に付随する柱穴の可能性あり
P04	A － 4	円形	0.31	0.28	0.46		・袋状の形態
P05	A － 4	円形	0.38	0.34	0.20		
P06	A － 4	円形	0.17	0.14	0.16		
P07	C － 3	円形	－	0.28	0.13	弥生後～古墳前以前	・SX01に切られる
P08	D － 4	円形	0.34	－	0.11	弥生後～古墳前か？	・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P09	C － 3	円形	0.16	0.14	0.21		
P10	C － 4	不整円形	0.48	0.43	0.14	弥生後～古墳前以降	・テラスあり ・2箇所の小ピット状の掘り込みあり
P11	C － 4	円形	0.27	0.21	0.10	弥生後～古墳前か？	・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P12	C － 4	円形	0.16	0.12	0.06	弥生後～古墳前か？	・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P13	C － 4	円形	0.26	0.22	0.05		
P14	C － 4	不整形	0.44	0.18	0.12	弥生後～古墳前か？	・段あり ・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P15	C － 4	円形	0.27	0.26	0.24	弥生後～古墳前か？	・テラスあり ・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P16	C・D － 4	円形	0.22	－	0.71	弥生後～古墳前	・SI01の柱穴 ・柱痕あり
P17	B － 4	円形	0.24	－	0.14		
P18	B － 4	長方形	0.79	0.45	0.16	中世以降	・板碑片出土 ・SD01に付随する柱穴の可能性あり
P19	C － 3	円形	0.25	0.22	0.28	弥生後～古墳前以降	・南東方向に向かう傾きを持つ ・SX01に付随する柱穴の可能性あり
P20	B － 3	円形	0.32	0.28	0.28		
P21	C － 4	円形	0.26	0.24	0.06	弥生後～古墳前か？	・SI01に付随する柱穴の可能性あり
P22	C － 3	円形	0.24	0.20	0.33	中世以前	・SD01に切られる ・南東方向に向かう傾きを持つ ・SX01に付随する柱穴の可能性あり
P23	B － 4	円形	0.32	0.32	0.17		
P24	B － 3	円形	0.28	0.25	0.24	中世以降	・SD01を切る



第 34 図　ピット出土遺物実測図（P03・P10・P18・P19）

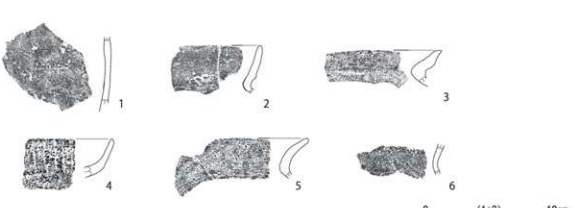
第 14 表　ピット出土遺物観察表

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 器高/底高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土／石材	焼成	色調	備考
34-1 19-P03-1	P03	土師器 壺形	口縁部	—	11.4	外面　丁寧なナデ(横位)。 内面　丁寧なナデ(横位)。	φ 1mm以下白色粒子少量	良	外面　にぶい黄褐(10YR5/3) 内面　灰黄褐(10YR4/2)	・古墳前期
32•34-2 19-P03-2	P03	土師器 甕形	口縁部 ～頸部	—	9.4	口唇部ヘラ状工具によるキザミ痕、ナデ(横位)。 口縁部ナデ(横位)。頸部以下ハケ目(横位)。	φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面　褐灰(10YR4/1) 内面　黄灰(2.5Y5/1)	・古墳前期
32•34-3 19-P10-3	P10	土師器 甕形か？	胴部	—	1.3	外面　— 内面　—	φ 1mm以下黒色粒子極微量	良	外面　明褐(7.5YR5/6) 内面　明褐(7.5YR5/6)	・古墳前期
34-4 19-P18-4	P18	板碑	—	—	92.1	外面　— 内面　—	緑泥片岩	良	外面　緑灰(10GS/1) 内面　緑灰(10GS/1)	・中世
34-5 19-P19-5	P19	土師器 甕形	胴部	—	29.6	外面　ハケ目(横位/斜位)。 内面　丁寧なナデ。	φ 1mm程度赤褐色粒子中量 φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面　灰黄(2.5Y7/2) 内面　灰黄(2.5Y7/3)	・古墳前期
34-6 19-P19-6	P19	土師器 壺形	胴部	—	27.3	外面　丁寧なナデ。 内面　ナデ(横位)。	φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面　灰黄褐(10YR4/2) 内面　褐灰(10YR4/1)	・外面赤彩 ・古墳前期

3　遺構外出土遺物（第 35 図　第 15 表　図版 19）

本調査では、試掘調査時に採取したものを含め、遺構外から 112 点（475.7g）の遺物が出土した。このうち、109 点（454.3g）が弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、３点（21.4g）が帰属時期不明の礫である。遺構出土遺物と併せ、遺構外出土遺物の出土点数、重量を第 16 表に示した。

なお、遺構外出土（確認面）として取り上げた遺物 15 点（36.5g）は、B－２・３グリッドの SX02・攪乱・P20 に囲まれた一帯から出土した遺物である。この一帯は、遺構確認面とした黄褐色粘土層の直上に、１～３cm の厚さで遺物細片と焼土粒子が混入する地山黄褐色粘土層よりやや色調が暗い暗褐色土層が分布していた。暗褐色土層の布域を判別することは困難であり、堆積土も薄かったため、調査の過程では遺構として認定することはできなかったことを記しておく。



第 35 図　遺構外出土遺物実測図

第 15 表　遺構外遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土地点	種別 器種	部位	出量(cm) 口径 器存低高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
35-1 19-遺構外-1	試掘	土師器 壺形	胴部	–	32.5	外面	ハケ目(斜位)後ナデ(横位)。	φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1～2mm褐色粒子微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	・古墳前期
						内面	ハケ目(斜位)後ナデ(斜位)。			内面	灰黄(2.5Y7/2)	
35-2 19-遺構外-2	試掘	土師器 広口壺形	口縁部 ～頸部	–	14.3	口縁部丁寧なナデ(横位)。頸部ハケ目(縦位)。		φ 1mm以下赤褐色粒子少量 φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面	橙(7.5YR7/6)	・古墳前期
						内面	丁寧なナデ。			内面	にぶい黄橙(10YR7/4)	
35-3 19-遺構外-3	試掘	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	–	25.1	外面	上下からの追り出しによる凸帯部を作出し、頸部ハケ目(縦位)後ナデ(横位)。	φ 1mm以下黒色粒子微量 φ 1mm以下白色粒子極微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR8/4)	・S字口縁 ・古墳前期
						内面	ナデ(横位)。			内面	にぶい黄橙(10YR8/4)	
35-4 19-遺構外-4	表土	土師器 壺形	口縁部	–	13.3	外面	器面摩滅が顕著。	φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1～2mm褐色粒子微量	良	外面	橙(5YR6/6)	・二重口縁 ・古墳前期
						内面	ナデ(横位)。			内面	橙(10YR8/4)	
35-5 19-遺構外-5	表土	土師器 広口壺形	口縁部 ～頸部	–	25.7	外面	丁寧なナデ(横位)。	φ 1～3mm白色小石多量	良	外面	橙(7.5YR6/6)	・古墳前期
						内面	ナデ(横位)。			内面	橙(7.5YR6/6)	
35-6 19-遺構外-6	表土	土師器 壺形	口縁部 ～頸部	–	10.2	外面	口縁部ハケ目(横位)。頸部ナデ(横位)。	φ 1mm以下白色粒子少量 φ 1mm程度褐色粒子微量	良	外面	にぶい黄褐(10YR5/3)	・古墳前期
						内面	口縁部丁寧なナデ。頸部ハケ目(横位)。			内面	にぶい褐(7.5YR5/4)	

第16表　遺物出土点数・重量一覧

		土師器（弥生後期～古墳前期）		礫		その他			合計	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	種別	点数	重量(g)
SI01	掲載遺物	1	7.1						1	7.1
	非掲載遺物	31	79.4	1	2.1				32	81.5
	小計	32	86.5	1	2.1				33	88.6
SX01	掲載遺物	10	798.4						10	798.4
	非掲載遺物	89	494.4	5	32.0				94	526.4
	小計	99	1,292.8	5	32.0				104	1,324.8
SX02	掲載遺物	97	14,802.4			1	27.4	土師器転用砥石	98	14,829.8
	非掲載遺物	887	5,179.6	20	163.9				907	5,343.5
	小計	984	19,982.0	20	163.9	1	27.4		1,005	20,173.3
SX03	掲載遺物	4	599.8						4	599.8
	非掲載遺物	3	24.0	1	2.4				4	26.4
	小計	7	623.8	1	2.4				8	626.2
SX04	掲載遺物	11	1,695.9			1	317.2	焼成粘土塊	12	2,013.1
	非掲載遺物	40	174.4	1	6.4				41	180.8
	小計	51	1,870.3	1	6.4	1	317.2		53	2,193.9
SD01	掲載遺物	1	36.0						1	36.0
	非掲載遺物	2	9.2						2	9.2
	小計	3	45.2						3	45.2
P03	掲載遺物	2	20.8						2	20.8
	非掲載遺物	2	12.7						2	12.7
	小計	4	33.5						4	33.5
P10	掲載遺物	1	1.5						1	1.5
	非掲載遺物									
	小計	1	1.5						1	1.5
P18	掲載遺物					1	92.1	板碑	1	92.1
	非掲載遺物									
	小計					1	92.1		1	92.1
P19	掲載遺物	2	56.9						2	56.9
	非掲載遺物									
	小計	2	56.9						2	56.9
遺構外（試掘）	掲載遺物	3	71.9						3	71.9
	非掲載遺物	65	186.2	2	10.0				67	196.2
	小計	68	258.1	2	10.0				70	268.1
遺構外（表土）	掲載遺物	3	49.2						3	49.2
	非掲載遺物	23	110.5	1	11.4				24	121.9
	小計	26	159.7	1	11.4				27	171.1
遺構外（確認面）	掲載遺物									
	非掲載遺物	15	36.5						15	36.5
	小計	15	36.5						15	36.5
	総計	1,292	24,447	31	228.2	3	436.7		1,326	25,112

第４章　まとめ

今回の発掘調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡１基、周溝状遺構４基、その他溝状遺構１条、ピット 24 基を検出した。

以下に弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡と周溝状遺構を取り上げ、今回の発掘調査の成果について記す。

１　竪穴住居跡

竪穴住居跡は１基検出した。第１号竪穴住居跡は、北西辺から南西隅にかかる一部分の検出であったため、全体の形状を明らかにすることはできなかった。本遺構では、検出範囲内で炉跡を確認することはできなかったが、貼床や壁周溝、柱穴の検出などから住居跡であると判断した。

第１号竪穴住居跡は、当該期の竪穴住居跡によく見られる隅丸方形状を呈するものと考えられる。今回の第 10 次発掘調査区の南東側に近接する第７次・第８次発掘調査区では、同一の集落に属したと思われる同時期の竪穴住居跡が計 18 基検出されており、第１号竪穴住居跡の全体の形状もこれに類するものであると考えられる。一方、第７次・第８次発掘調査で検出した竪穴住居跡との相違点は、覆土に含有される焼土や炭化物、出土遺物の多寡である。第７次・第８次発掘調査で検出された竪穴住居跡は、焼失住居を想起させるように覆土から焼土や炭化物が多量に検出されたものが多く、これに伴って多くの遺物が検出された。一方で、今回の調査で検出した第１号竪穴住居跡の覆土には焼土や炭化物の混入は少なく、出土遺物も土師器細片 33 点、88.6g と非常に少なかった。

本遺構では壁周溝を明確に確認することができた。貼床層（生活面）との切り合い関係についても明らかであることから、壁周溝は壁の崩落を防ぐための部材が設置された痕跡であると考えられる。竪穴住居跡に伴う柱穴は P16 があるが、柱穴の規模は平面上端幅径 0.22m と小さい。したがって、これが主柱穴であると判断するのは困難であり、当該期の竪穴住居跡にしばしば見られる４本の主柱跡は、調査区外に存在する可能性がある。その他、特筆すべき点としては、第１号竪穴住居跡の掘り込みを囲むように検出されたピット群の検出である。これらのピットは出土遺物も少なく、掘り込みも浅いため断定することはできないが、竪穴住居外に設置した支柱のための柱穴であった可能性がある。

今回の調査区における竪穴住居跡の検出は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の集落が、現在の鍛冶谷・新田口遺跡の範囲の西端部にまで広がっていたことを示唆するものであり、重要な成果であると言える。

２　周溝状遺構

周溝状遺構は４基検出した。今回「周溝状遺構」と呼称した遺構は、溝状遺構が円形や方形状に巡る遺構であり、これまでの研究で「①方形周溝墓、②伏屋式竪穴建物、③伏屋式平地建物、④高床の掘立柱建物、⑤壁立式平地建物」などの性格・機能が想定されている遺構と同種のも

のである（福田 2014）。

今回検出した周溝状遺構 4 基は、調査範囲の制限により、全体の形状を明らかにすることができたものはなかった。一方で、第 1 号周溝状遺構および第 2 号周溝状遺構は部分的な検出ではあったものの、その性格や機能についてある程度の知見を得ることができたため、以下にその概要を示す。

（1）第 1 号周溝状遺構

第 1 号周溝状遺構の周溝上端幅は 0.70 ～ 1.00m 程度、確認面からの深さは 0.25 ～ 0.40m であり、遺構覆土からの遺物の出土点数は相対的に少なかった。やや大型の破片資料は、周溝の角や辺の中程から出土しているが、これが儀礼や祭祀によるものであるかどうかは不明である。また、外来系土器の出土も注目できる。

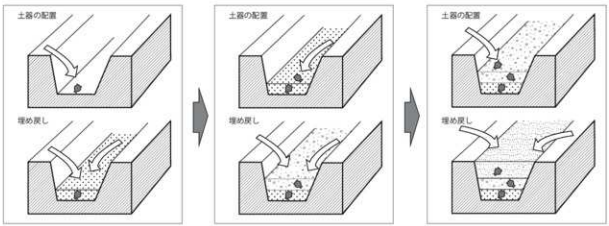
第 1 号周溝状遺構で特筆すべきは、これに付随する可能性があるピットの存在である。第 3 章第 1 節においても述べたが、周溝の内側からは P03 が、周溝の外側からは P19・P22 が検出された。これらのピットはいずれも周溝の中心部に向かう傾きを有しており、P03・P19 からは第 1 号周溝状遺構から出土した土器と同じ時期に属する土師器片も出土した。これらのピットが第 1 号周溝状遺構に付属するものであった場合、第 1 号周溝状遺構の性格として想定されるものは「周溝を有する建物」であり、ピットは建物の柱穴であった可能性が考えられる。本遺構では、残念ながら鍛冶谷・新田口遺跡第 5 次調査第 1 号方形周溝墓や同遺跡事業団調査第 40 号方形周溝墓のように周溝内構造物や周堤の存在を示唆するような検出状況はなかったが、「周溝を有する建物跡」の可能性がある検出事例の一つとして今後の検討材料になると思われる。また、「周溝を有する建物」とはどのような建物であったのか、しばしば隣接あるいは重複して検出される竪穴住居や方形周溝墓との関係をどのように解釈すべきかについても、併せて今後の検討を要すると考える。

（2）第 2 号周溝状遺構

第 2 号周溝状遺構は、全体の 1 ／ 8 以下の調査ではあったが、出土遺物量は非常に多く、1,005 点、20,173.3g に及ぶ土師器が出土した。単純計算を行うと、本遺構全体が包含する遺物量は 8,000 点、160kg は下らないものと推定できる。

第 2 号周溝状遺構で特筆すべきは、複数回の埋置行為が想定される略完形・大型土器破片の出土状況である。特に、「南部集中地点」で出土した甕形土器の出土状況は、第 36 図に模式図を示したように「土器の配置」→「埋め戻し」という埋置行為が複数回に渡って行われた可能性を示す良好な検出事例である。

福田聖氏は、方形周溝墓の認定基準に「①方台部が直線的な辺を持つ。②平面形は全周、一隅切れ、四隅切れがある。③施設としての溝中土坑がある。④幅が 1 m 以上、深さが 50cm に満たないような広く浅いものは少ない。⑤壺の出土比率が高い。⑥出土土器の完形率が高い。⑦出土土器の出土位置がコーナーや陸橋部際、特定の周溝に偏る。⑧整然とした群構成をなす」



第 36 図　第２号周溝状遺構 南部集中地点埋没過程模式図

の８点を挙げている（福田前掲）。第２号周溝状遺構は部分的な検出であったため、上記認定基準を満たすことが明らかなものは①、④、⑥のみである。一方で、⑤については、破片資料からの個体数の推定方法や器種の認定基準などの問題が未解決であるため明言は避けるが、概して壺の出土比率が高いとは言い難い。

上記の方形周溝墓の認定基準を援用し、第２号周溝状遺構の性格を「墓」と認定することは困難である。しかしながら、南部集中地点で見られた土器の出土状況のように、同じ場所で土器の埋置行為が繰り返し行われたということは、当時の人々にとってこの場所、空間が一定期間、特別な意味を持ち続けたという点については間違いないものと思われる。そして、この特別な空間が先祖祭祀の場としての「墓」であり、土器の埋置行為が定期的に繰り返される儀礼・祭祀の一部であった可能性も充分に考えられよう。

結語

今回の発掘調査では、調査面積が 90.60 ㎡と狭小であったにもかかわらず、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭、中世に形成された多様な遺構と遺物を検出することができた。特に、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の周溝状遺構では、当時の人々の生活や文化を示唆するような状況で遺構・遺物を検出することができた点は大きな成果である。

今後、これらの資料を他の遺跡における資料と比較、検討していくことによって、より大きな成果が得られるものと考える。

引用・参考文献

伊藤和彦

1984 『鍛冶谷・新田口遺跡第３次発掘調査概要』戸田市文化財調査報告 15　戸田市教育委員会

岩井聖吾・坂上直嗣・山嵜裕子

2013 『南原遺跡Ⅺ』 戸田市文化財調査報告 18　戸田市教育委員会

岩井聖吾・向井　亙

2015 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅸ』 戸田市文化財調査報告 23　戸田市教育委員会

小島清一

1990 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅴ』戸田市遺跡調査会報告書第２集　戸田市遺跡調査会

1994 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅵ』戸田市遺跡調査会報告書第４集　戸田市遺跡調査会

2001 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅶ』戸田市遺跡調査会報告書第８集　戸田市遺跡調査会

2005 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅷ』戸田市遺跡調査会報告書第 10 集　戸田市遺跡調査会

塩野　博

1968 『鍛冶谷遺跡第１次発掘調査概報』戸田市文化財調査報告１　戸田市教育委員会

1969 『鍛冶谷・新田口遺跡 方形周溝墓群の調査』 戸田市文化財調査報告２　戸田市教育委員会

杉原荘介・大塚初重

1971 『土師式土器集成本篇１（前期）』 東京堂出版

西口正純・山本禎・鈴木仁子・金井由美子

1986 『鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 62 集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

西相模考古学研究会

2014 『久ヶ原・弥生町期の現在－相模湾／東京湾の弥生後期の様相－』 西相模考古学研究会記念シンポジウム資料集　西相模考古学研究会

早田利宏・河野一也・井博幸

2010 『南原遺跡Ⅸ』 戸田市文化財調査報告ⅩⅦ　戸田市教育委員会

福田　聖

2014 『低地遺跡からみた関東地方における古墳時代への変革』 六一書房

写　真　図　版

図版 1

1　調査区全景（1）（東から）

2　調査区全景（2）（西から）

1　遺構検出状況（1）（南東から）

2　遺構検出状況（2）（西から）

1　SI01 構造面完掘（北から）

2　SX01・SD01 完掘（南西から）

1　SX01・SD01 完掘（2）（北西から）

2　SX01-No.1 出土状況（南から）

1　SX01-No.2 遺物出土状況（北から）

2　SX02 完掘（南東から）

1　SX02 北部集中地点遺物出土状況（南西から）

2　SX02-No.28 遺物出土状況（南東から）

1　SX02 北部集中地点遺物出土状況（南から）

2　SX02 北部集中地点遺物出土状況（北から）

1　SX02 南部集中地点遺物出土状況（南から）

2　SX02 南部集中地点遺物出土状況（南西から）

1　SX02-No.1 遺物出土状況・SX02 SPA-SPA' 断面（南西から）

2　SX02 SPB-SPB' 断面（南西から）

1　SX03 完掘（西から）

2　SX03-No.1 遺物出土状況（南から）

1　SX04 完掘（南東から）

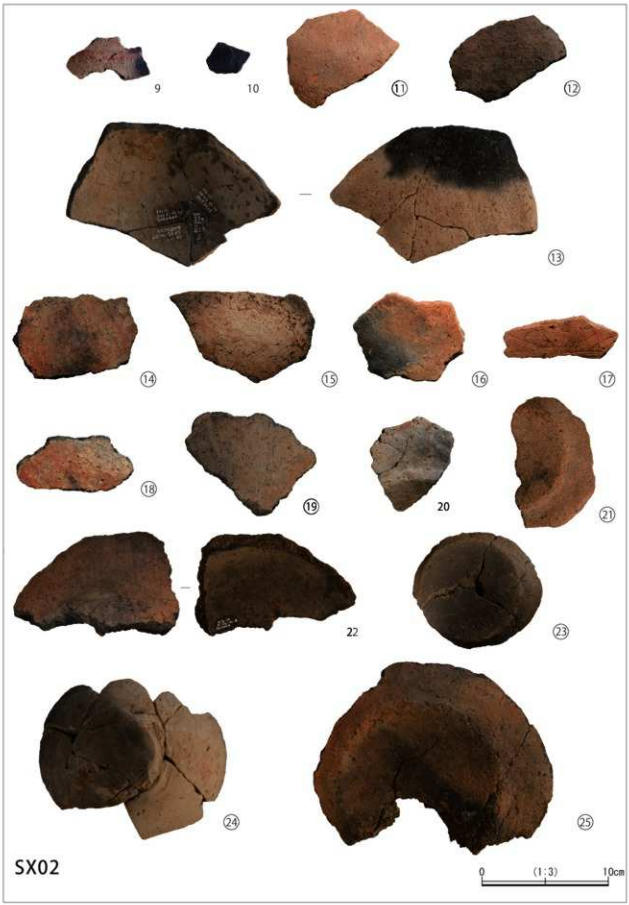
2　発掘調査風景（1）

3　発掘調査風景（2）

4　発掘現場説明会（1）

5　発掘現場説明会（2）

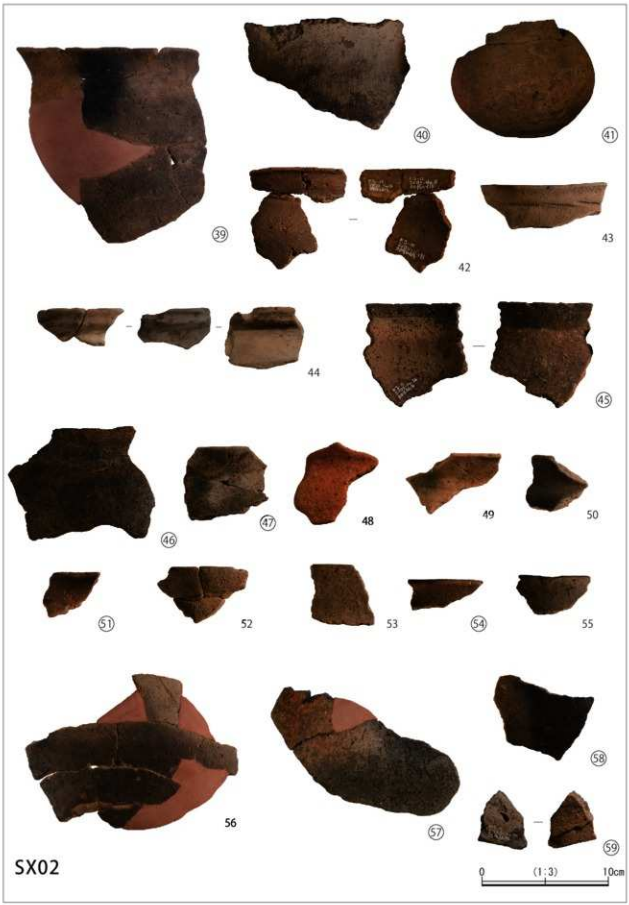
出土遺物写真（1）



出土遺物写真（2）

出土遺物写真（3）

出土遺物写真（4）


39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
SX02
0 (1:3) 10cm

出土遺物写真（5）

60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82-1
82-2
SX02
0
(1:3)
10cm

出土遺物写真（6）

83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
94
95
93
96
97
98
SX02
SX03
2
3
4
①
SX04
①
0
(1:3)
10cm

出土遺物写真（7）

出土遺物写真（8）

報告書抄録

ふりがな	かじや・しんでんぐちいせき じゅう まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	鍛冶谷・新田口遺跡X　埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	
シリーズ名	戸田市文化財調査報告
シリーズ番号	24
編著者名	岩井　聖吾
編集機関	埼玉県戸田市教育委員会
所在地	〒335－8588　埼玉県戸田市上戸田1－18－1　℡048（441）1800
発行年月日	2016（平成28）年　3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
鍛冶谷（かじや）・新田口（しんでんぐち）遺跡	埼玉県戸田市上戸田（おうずまち かみとだ）5丁目27番3	11224	06-001	35° 48′ 43″	139° 40′ 15″	15.4.6 ～ 15.5.7	90.60	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍛冶谷・新田口遺跡	集落跡	弥生時代後期後半 ～ 古墳時代前期初頭	竪穴住居跡　1基 周溝状遺構　4基 ピット　1基	弥生土器 土師器 土師器転用砥石	・荒川流域の自然堤防上でよく検出される周溝状遺構を4基検出した。 ・第2号周溝状遺構からは遺存状態が良好な土器が出土した。
		中世	ピット　1基	板碑	・第18号ピットから板碑片が1点出土した。
		その他	溝状遺構　1条 ピット　22基		

要約

本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である鍛冶谷・新田口遺跡の範囲に属し、JR埼京線戸田駅から南東に650m、戸田公園駅から北西に810mの戸田市上戸田5丁目27－3に所在する。

今回の発掘調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居1軒、周溝状遺構4基、その他溝状遺構1条、ピット24基を検出した。また、これらの遺構に伴い、弥生時代後期後半から古墳時代前期の弥生土器・土師器、土器転用砥石、中世の板碑が出土した。特に、第2号周溝状遺構（SX02）からは遺存状態が良好な土器が大量に出土し、周溝状遺構の性格を検討する上で重要な資料を得る事ができた。

戸田市文化財調査報告　ＸＸⅣ

鍛冶谷・新田口遺跡Ｘ
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集　埼玉県戸田市教育委員会
〒335－8588　埼玉県戸田市上戸田１－１８－１
℡　０４８（４４１）１８００
印　　刷　関東図書株式会社
〒336－0021　埼玉県さいたま市南区別所３－１－１０
発　行　日　平成２８年３月１５日